

(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究（小・中学校）」
平成25年度委託事業完了報告書
【推進地域】

道府県名	岡山県	番号	6
------	-----	----	---

推進地区名	推進校名	児童生徒数
美咲町	美咲町立旭小学校	97人
美咲町	美咲町立旭中学校	67人
鏡野町	鏡野町立南小学校	263人

○ 調査研究の内容

1. 推進地域における取組

本県では、平成22年2月に策定した「岡山県教育振興基本計画 ―未来を拓く 人づくりプラン―」（計画期間：平成22～26年度）に基づき、その実現に向けて各年度にアクションプランを策定し、単県事業として全県的な学力向上施策を展開している。

県教育委員会では、全国学力・学習状況調査や岡山県学力・学習状況調査、取組状況調査等から、1 学習状況の把握、2 授業力の向上、3 組織力の向上、4 学習の基盤づくりの4つについて重点的に取り組んだ。

(1) 学習状況の把握

①岡山県学力・学習状況調査の実施及び問題作成

・平成25年4月24日に公立中学校第1学年を対象とした国語・社会・数学・理科の学力・学習状況調査を実施し、結果を生かした小・中連携の取組を行った。

→中学校区の小・中学校で研修会の開催 100%

・平成26年に実施する公立中学校第1学年を対象とした国語・社会・数学・理科の学力調査及び質問紙調査の問題を作成。

→平成26年4月22日 全国学力・学習状況調査と同日実施

②学力定着状況たしかめテストの実施

・平成25年11月から12月にかけて、小学校5年生及び中学校2年生を対象に全国学力・学習状況調査問題を活用したテストを実施し、その結果を集計・分析し、課題を明らかにすることで、各学校の焦点化した指導改善に役立てた。

③学習到達度確認テストの実施

小1～中3対象の問題をWebシステムから配信、公立小・中学校に印刷用シート配付

・算数・数学：単元ごとの到達度確認、基礎基本の徹底と活用力の育成

・読解力：思考力・判断力・表現力の育成

→活用率[算数・数学] 小学校88.5% (美咲町100%、鏡野町100%)

中学校67.5% (美咲町66.6%、鏡野町100%)

[読解力] 小学校79.0% (美咲町80.0%、鏡野町75.0%)

中学校55.1% (美咲町33.3%、鏡野町75.0%)

(2) 授業力の向上

①魅力ある授業づくり徹底事業

・児童生徒に確かな学力を育成する授業の実現に向け、指導主事や退職教員等を積極的に派遣し、授業改善に向けた指導・助言等や校内研修等の支援を継続的に行うことで、

教員の授業力の向上を図った。県内で60校程度の小・中学校を2年間指定（1年目10回程度訪問、2年目2回訪問）。

→H25年度公開授業及び研究協議等の実施

美咲町立旭小学校10回訪問、旭中学校10回訪問、鏡野町立鏡野中学校10回訪問

・指定校の中核となる教員14名を、県外の先進校へ1週間程度派遣し報告会を実施。

→H25年度県外派遣成果報告会の実施 県下2会場 合計参加者129名

・魅力ある授業づくり徹底事業研究協議会において、国語、算数・数学の学力調査官を招き、小・中学校における国語科及び算数・数学科の授業改善の方法等について協議した。

→国語 参加人数 小学校：91名 中学校：42名

→算数・数学 参加人数 小学校：119名 中学校：40名

②授業改革協力員の指定

国語、算数・数学、社会、理科、英語教育に関して豊かな専門知識と経験を有する教諭等126名を委嘱し、所属校での校内研究の企画・運営や校外に向けた授業公開等により、地域の授業改革の中核として、学力向上の取組を推進。美咲町2名 鏡野町1名
→公開授業後に参加者全員で活発な意見交換ができる工夫をしている86.3%

授業改革協力員として、校内の授業研究の充実を図っている83.1%

授業公開前に指導案検討や模擬授業等を行っている82.3%

③小学校理科ステップアップ研修会

県内の小学校教員を対象とし、基本的な観察・実験の指導方法の習得等を図ることで、理科指導力の向上に資することを目的に、岡山大学と連携して県内17会場で実施。

総参加者数：455名

④学力向上を図るための資料

授業展開の好事例、学力をさらに伸ばす工夫例や家庭学習の充実を図る取組等を県教育庁義務教育課のホームページに掲載

・学力向上実践校リスト→小学校17(鏡野町2 南小学校 含む) 中学校8

・学力向上のための素材集→算数習熟度別指導案4種類を追加

⑤全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業研究協議会

全国学力・学習状況調査から明らかとなった本県の学力の課題を基に、国語・数学の公開授業を通して授業改善の方策等について協議し、各学校、地域の指導方法の工夫・改善の推進に資する目的で開催。（学力調査官2名を招聘）

→国語：井原市立美星中学校 10月8日 参加者数39名

→数学：真庭市立落合中学校 10月8日 参加者数38名

⑥小学校算数科研究協議会

全国学力・学習状況調査から明らかとなった本県の学力の課題である小学校算数科の授業改善の方策について協議し、各学校、地域の指導方法の工夫・改善の推進に資する目的で開催。

→県総合教育センター10月24日 参加者数153名 美咲町5名（旭小含）鏡野町6名

⑦小中学校理科研究協議会

岡山県学力・学習状況調査から明らかとなった小・中学校理科の授業改善の方策について協議し、各学校、地域の指導方法の工夫・改善の推進に資する目的で開催。（学力調査官1名を招聘）

→県総合教育センター9月26日 参加者数（中学校16名、小学校40名、行政18名）

⑧学力向上ポスターセッションフォーラム

6中学校区が、中学校区の研究の成果等についてポスターセッション形式で発表し、参加者と意見交換することで自校の取組を振り返り、今後の方向性を考察するとともに、参加者が学力向上実践校の様々な研究成果や、有識者による鼎談を通して、授業

改善のヒントや、学校改革へのアイデアを得るフォーラムを開催。

→ピュアリティまきび12月25日 参加者数363人 参加者の満足度98.5%

(3) 組織力の向上

①研究主任実践力アップ研修会

P D C Aサイクルに位置付けた効果的な研究の進め方等についての研修会を実施することにより、研究推進リーダーとしての資質や能力の向上を図り、授業改革に向けた校内研究の充実に資する目的で開催

→県内3会場で年間2回開催 総参加者数：102名

(4) 学習の基盤づくり

①学びのチャレンジコンテスト

「学びの定期便」として、チャレンジ問題を児童一人一人に送付し、個人、グループ、クラスで挑戦することを通して、自ら進んで学ぼうとする意欲やチャレンジ精神の喚起に資することを目的に実施(年6回送付)。

→活用率 小学校96.1% (美咲町100%、鏡野町87.5%)

②ホリデーわくわく学習支援事業

地域の実態に応じて土曜日や長期休業中等に児童生徒に対し、教員OB等を指導者とした補充的・発展的な学習指導を実施。

→実施市町数(校数) 11市町村(小学校：58校、中学校：20校)

③放課後学習サポート事業

学習内容の確実な定着を図るため、放課後に児童を対象として補充的な学習等を実施する小学校に、支援員を配置。

→実施市町数(校数) 17市町(小学校：178校)

(5) 推進地区及び推進校に対して行った指導・助言の状況について

推進地区(美咲町) 推進校(美咲町立旭小学校、旭中学校)	実施日
・美咲町学力向上推進連絡協議会(第1回)	5月23日
・美咲町学力向上推進連絡協議会(第2回)	8月2日
・旭小中学校一貫教育研究会	11月20日
・美咲町学力向上推進連絡協議会(第3回)	12月9日
・美咲町学力向上推進連絡協議会(第4回)	3月3日

推進地区(鏡野町) 推進校(鏡野町立南小学校)	実施日
・学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究推進校研究発表(南小学校)	10月30日
・鏡野町学校力向上実践校指定事業指定校(大野小学校)	11月13日
・鏡野町学校力向上実践校指定事業指定校(香北小学校)	11月28日
・鏡野町学校力向上実践校指定事業指定校(鏡野中学校)	11月18日

2. 推進地区における取組

(1) 美咲町の取組

○校長、教頭、学力担当者、5・6年担任、教育委員会からなる美咲町学力向上推進連絡協議会を立ち上げ、学力向上に対する取組について協議を重ねた。

・第1回 学力向上に関する町の方針説明、共通課題の洗い出し

- ・第2回 学力に関する現状と今後の方向性や、共通課題に対する各校の取組についての交流
 - ・第3回 町の統一テストの情報交換、先進校視察報告、進捗状況の交流
 - ・第4回 生活・学習アンケート結果の説明、今年度の取組のまとめと来年度への展望について
- 「グランドデザイン」「アクションプラン」「共通課題」を策定し、推進地区の学校全体で取組の方向性を共有した。
 - 全国学力・学習状況調査の結果について、検査実施直後に自校採点を行い、課題の洗い出しと取組の方向性を決定したり、過去5年間の結果を県総合政策局政策企画員へ依頼して詳細に分析するなど、積極的に活用した。
 - 詳細な分析から明らかになった基礎・基本の定着を図るべく、「美咲町統一テスト」を行い、漢字、計算、英単語の定着状況を把握し、一人一人の学力の定着状況に合った「基礎定着プリント」を活用できるようにした。
 - 教職員の指導力向上を目指し、外部人材を活用した研修や、先進校視察を行った。
 - 家庭学習習慣の定着を目指して、家庭との連携を強化するため次のような取組を行った。
 - ・美咲町ケーブルテレビ「みさきっ子テレビ教室」（30分番組）を制作し、ポイント学習と学校の活動等を紹介した。
 - ・町PTA連合会と連携し、各校PTAで共通テーマ「メディアとの付き合い方」「家庭学習」「読書活動の推進」について協議した。
 - ・小学校5年生以上の児童生徒に対し、生活・学習状況についての町独自のアンケートを実施することで、現状を把握し検証に役立てた。

(2) 鏡野町の取組

- 授業参観等を通して、次の4点（評価規準に照らした授業展開、基礎基本の定着に向けた継続的な取組、児童生徒の実態把握を行った上での単元計画、多様な学習集団での話し合い活動を通じた児童生徒の活用力向上）を管内の学校に対し共通項目として指導した。
- 先進的な取組を自校へ取り入れるため、校長や教員を秋田県湯沢市学力向上フォーラム（学校長）、筑波大学附属小学校（教諭）、広島県東広島市立八本松中学校（主幹教諭）等へ派遣した。
- 小中連携の取組として、各小学校共通の「春休みの生活の記録・学習課題ノート」を小学校6年生の春休みに配付し、中学校入学後に課題テストを行うことで、基礎基本の定着を図った。
- 外部講師を招聘し、町内全教職員を対象とした研修会を実施するとともに、学習する集団づくりについて講演会を開催した。
- 県教育委員会が実施した「学力定着状況たしかめテスト」の結果を受け、各校の定着状況を分析し、指導を行った。

3. 推進校における取組

(1) 美咲町立旭小学校の取組

- 小中一貫コーディネーターを旭中学校の分掌に位置付け、週3回小学校を兼務し、6年生を中心にTTでの授業や、研究の連絡調整を行った。また、授業づくり部会を文系部会、理系部会、支援部会の3部会に分け授業研究を行った。この3部会に養護、事務からなる基盤づくり部会を合わせた全体会を毎月行い、授業研究を進めた。
- 岡山県総合教育センターから指導主事を招聘し、年間を通じて「ゴールデザインを明確にした授業づくり」に取り組んだ。授業の流れを板書計画に表したり、算数科では「めあて→個人思考→集団思考→まとめ」の授業展開をパターン化することで見通しが持てるよう

にした。また、「授業参観シート」を小中合同で作成し、研究授業時の評価や、日常の授業の自己評価に活用した。

- 家庭学習の習慣化を目指し、「アウトメディア週間」を設け家族ぐるみで取り組んだり、「家庭学習チャレンジ週間」を年間5回設け、家庭学習カードにより、児童生徒の頑張りが可視化できるようにした。また、地域のボランティアによる「放課後子ども教室（寺子屋あさひ）」を毎週2回開校し、地域の教育力を活用した。
- 大学関係者や岡山県総合教育センター指導主事等の指導により、指導のあり方や授業力向上につながる具体的な助言を受けた。また、学力向上に取り組んでいる先進校や小中一貫での研究を進めている学校の研究会へ参加することによって、先進的な取組事例や指導法の工夫等の情報を得た。

(2) 美咲町立旭中学校の取組

- 小中一貫コーディネーターを旭中学校の分掌に位置付け、週3回小学校に兼務の形で赴き、6年生を中心にTTでの授業や、研究の連絡調整を行った。また、授業づくり部会を文系部会、理系部会、支援部会の3部会に分け授業研究を行った。この3部会に養護、事務からなる基盤づくり部会を合わせた全体会を毎月行い、授業研究を進めた。
- 家庭学習の習慣化を目指し、中学校の定期テスト期間に合わせて「アウトメディア週間」を設け、取組の成果や感想等を「アウトメディア通信」として発信している。
- PTAからの呼びかけで、長期休業中（夏休み、冬休み）に1日1ページ自主学习する「PTA錬磨ノート」に生徒が取り組むことで、保護者の意識向上にもつながった。また、夏休みの前半2週間に希望者を登校させ、自主学习の場を設定したり、地域のボランティアによる「放課後子ども教室（寺子屋あさひ）」を毎週2回開校するなど、地域の教育力を活用した。
- 帰りの会の前の10分間を「錬磨タイム」として、学年ごとの課題に取り組んでいる。学期に1回の「チャレンジテスト」では、漢字、英単語、計算問題を各50問解き、8割以上正解になるまでテストを繰り返すことで、基礎学力の定着を図った。

(3) 鏡野町立南小学校の取組

- 管理職を中心として研究推進委員会を組織し、全校研修会での方向性を示した。また、研究部に学力向上班、生活習慣づくり班を組織し、それぞれ取組を提案した。
- 学年部代表による全校研修研究授業と部会内研究授業を実施し研究を深めた。指導案の作成は、授業者と所属学年部を中心に行い、研究授業に先立っての全校研修において提案された指導案を共通理解した上で研究授業を行った。研究授業後は外部講師の意見を参考に全体会で研究協議をもち、考察及び反省を行った。
- 通常授業での「話し合い」や「書くこと」の言語活動の取組について、年間3回の観察授業実施期間を設け、管理職による進捗状況のチェックを行った。
- 国語科の基礎力をしての言語力の向上を図るため、特に「書く力」の育成を目指した取組として、話し合い活動の中で話し合ったことや、振り返りを書くことで確認させる活動を取り入れた。また、授業の導入時のめあて等をノートに書く際、単に視写するのではなく、耳から聞いて書き取る「共書き」を行ったり、朝学習でも書く活動を取り入れたりした。
- 家庭学習（自主学习）への積極的な取組として、児童と家庭に示している「家庭学習の手引き」を再度改訂し、自主学习の内容を具体的に示して、児童や保護者が自主学习に取り組みやすくした。また、基礎学力向上補充学習をH26年1月～3月にかけて、各学年放課後に週1回行った。

○ 調査研究の成果

1. 推進校における取組の成果

(1) 美咲町立旭小学校の成果

- 「教室の様子」と称したアンケート結果から「授業のめあてがわかる(10%)」「しっかり考えることができる(13%)」「授業の中で話し合いをすることは好きだ(13%)」の3項目において、それぞれ肯定的回答をした児童の割合が、昨年度より増えたことがわかった。[()内の数値が上昇]。「めあて→個人思考→集団思考→まとめ」の授業展開を全教科でパターン化したことで、児童が見通しを持って授業に取り組んでいることがわかる。また、学習の基盤づくりとしての学習規律の徹底についても「7つの約束」の取組を継続して行い、児童に意識付けを行った。その結果、昨年度のアンケート調査と比較すると、「あいさつをきちんとする」「いっしょうけんめい考えている」「進んで発表をしている」の項目で、よくできていると自己評価している児童の割合が増えた。
- 朝学習も軌道に乗り始め、5年生を対象とした岡山県の「学力定着たしかめテスト」では、算数の計算問題の正答率が、県平均を大きく上回った。また、「美咲町統一基礎テスト」においては、漢字・計算のどちらも、全学年が目標の平均80点以上を達成した。さらに、アウトメディア週間に合わせて実施した家庭学習チャレンジでは、全学年で「学年×10分+10分」という「学習のめやすの時間」を達成した。

(2) 美咲町立旭中学校の成果

- 「教室の様子」と称したアンケート結果から「授業の目標がわかる」「しっかり考えることができる」「授業の中で話し合いをすることは好きだ」「話し合いをするとよくわかる」の質問で肯定的回答をした生徒の割合が、H24年6月よりH25年6月、さらにH26年1月と徐々に増えたことがわかった。「めあて→個人思考→集団思考→まとめ」の授業展開を全教科でパターン化した指導をすることで、生徒が見通しを持って授業に取り組んでいることがわかる。また、生徒は話し合いを通して学習する本校のスタイルを肯定的にとらえており、実際に授業での話し合いの場面で、しっかりと考え、その考えをグループやクラス内で表現することができるようになってきている。
- 「アウトメディア週間」や、小中合同の保護者会を通じて、SNS等の危険性やアウトメディアの意義について確認した。これらの取組の成果を検証するため、メディア接触の時間の状況について、1月に全国学力学習状況調査の質問紙調査と同内容の調査を全校で実施し、比較した。その結果、TV・DVD視聴時間、平日のゲームの時間ともに3時間以上の生徒は、H24年から徐々に減り、全国平均よりも少なくなっている。

(3) 鏡野町立南小学校の成果

- H25年度鏡野町教育委員会実施学力診断テストで、国語科は活用型問題偏差値平均の全国との比較でH24年度(45.8)⇒H25年度(53.5)に、算数科も、H24年度(48.3)⇒H25年度(52.0)と、上昇した。
- H25年10月30日(水)実施の3つの公開授業では、授業改善でのポイントである「話し合い」と「書くこと」をつなぐための効果的な言語活動の推進を学年部ごとに示すことができた。研究協議の指導講評においても、取組の方向性について適切であり、児童の活動に成果が表れているとの評価であった。
- H25年度実施の学校評価において、「1学期より授業中の説明や話し合い活動が充実して考える力が増した」と感じている児童と教職員の割合が95%以上となり、期待値を大きく上回った。

2. 調査研究全体の成果(成果◎、課題▲)

① 学習状況の把握

< H25全国学力調査の平均正答率と全国との差 >

小学校	国語		算数		中学校	国語		数学	
	A	B	A	B		A	B	A	B
岡山県	61.4	47.7	74.6	57.2	岡山県	76.4	66.4	62.8	40.3
全国	62.7	49.4	77.2	58.4	全国	76.4	67.4	63.7	41.5
差	▲1.3	▲1.7	▲2.6	▲1.2	差	0.0	▲1.0	▲0.9	▲1.2
H22全国調査(小6当時)					差	0.5	▲0.3	▲1.5	▲0.2

< H24全国調査等の結果の活用(H25全国学力・学習状況調査学校質問紙) >

項目	小学校			中学校		
	県	全国	差	県	全国	差
具体的な教育指導の改善等を行ったか	97.0	92.1	4.9	90.8	88.7	2.1
学校全体で教育活動を改善するために活用したか	94.1	88.7	5.4	85.9	84.9	1.0
保護者や地域の人に対して公表や説明をしたか	76.1	73.1	3.0	78.5	68.6	9.9
学力向上の取組を、保護者等に働きかけたか	82.8	78.9	3.9	77.3	71.3	6.0

◎全国調査等の結果を受けて、具体的な教育指導の改善や教育活動を改善するための活用については、小・中学校とも学校が積極的に取り組み、全国平均を上回っている。

◎全国調査等の結果に関する公表や説明を地域や保護者に対して行ったり、学力向上の取組を保護者等に働きかけたりする割合は全国平均を上回っている。

▲中学校国語を除き、全ての項目で平均正答率が全国平均を下回っており、特に小学校算数においては全国との差が大きい。計算や図形の操作など、繰り返し徹底してきめ細かくていねいに指導し、つまづきをなくしていく必要がある。

▲H22の小学校6年生当時とH25の中学校3年生の状況を比較すると、国語、数学ともB問題が、全国平均よりも低く、差も開いている。

< 学習到達度確認テスト活用状況(岡山県実施の学習指導・生徒指導の取組状況調査) >



◎小中学校において、到達度確認テスト等を全学級で授業等で活用したり、結果を指導に生かしたりする学校が増加した。

▲実施予定なしとする学校も小・中学校ともに増えていることから、活用実践校の成果の普及を行い、活用の徹底を図る必要がある。

< H25学力定着状況たしかめテストの結果の活用(H25学習指導・生徒指導取組状況調査) >

	小学校	中学校
各設問の全国及び県調査結果の比較グラフを基に具体的な指導改善を図った	97.0%	93.1%
学力定着状況たしかめテストの結果を基に、児童生徒の個別指導に取り組んだ(支援員等が対応した場合も含む)	93.9%	86.9%
自校の学力定着状況たしかめテストの結果や課題・改善策等について、全教職員で共有した	95.9%	91.3%

◎多くの学校が学力定着状況たしかめテストの結果や、課題・改善策を全教職員で共有し、指導改善や個別指導に役立てている。

▲学力定着状況たしかめテストの結果を活用していない学校がある。特に中学校において、結果を活用した個別指導の充実を図る必要がある。

▲中学校においては、生徒全体への具体的な指導改善に比べ、生徒の個別指導が十分できていない。

② 授業力の向上

＜魅力ある授業づくり徹底事業 (H25県事業評価アンケート、関係学校長回答)＞

質問項目	小学校(40校)				中学校(17校)			
	授業改善に取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	授業改善に取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
職員会議等で授業改善の取組について話し合っている	95.0%	5.0%	92.9%	7.1%	94.1%	5.9%	92.9%	7.1%
授業改善の取組が進んでいる	92.5%	7.5%	90.6%	9.4%	88.2%	11.8%	88.2%	11.8%
学力定着テストの結果を活用して授業改善を行っている	94.4%	5.6%	93.8%	6.2%	94.1%	5.9%	94.1%	5.9%
個別指導の取組が充実している	92.5%	7.5%	90.6%	9.4%	88.2%	11.8%	88.2%	11.8%

◎小中学校とも、指導主事や退職校長等の指導助言により、授業改善に向けての意識が高まった。

▲教員の授業改善がほぼ全員進んだと回答した学校は、小学校60.5%、中学校76.5%であり、授業改善に対する意識の高まりが実際の授業改善につながっていない場合がある。

＜模擬授業や事例研究等実践的な研修を実施している (全国調査・学校質問紙)＞

	小学校					中学校				
	H25	H24	H22	H21	H20	H25	H24	H22	H21	H20
岡山県	95.5	92.4	95.0	92.7	91.1	81.0	79.2	78.8	68.1	67.7
全国	94.8	94.6	94.4	93.7	92.7	86.4	85.3	83.2	82.5	81.2
差	0.7	▲2.2	0.6	▲1.0	▲1.6	差	▲5.4	▲6.1	▲4.4	▲13.5

◎小中学校とも、模擬授業や事例研究等の実践的な研修を実施している割合が増加し、小学校は全国平均を上回った。

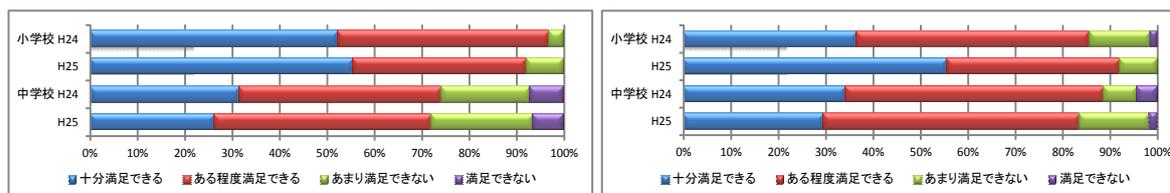
▲中学校においては、模擬授業などの研修の実施率が80%を超えたが、全国との差はまだ開いており、実践的な研修の実施に向けた働きかけが必要である。

＜学力向上ポスターセッションフォーラムの満足度＞

アンケート項目	H24	H25
ポスターセッションは、今後の取組の参考になったか	98.1%	98.5%
パネルディスカッション、鼎談は今後の取組の参考になったか	98.1%	97.6%
参加者数	357人	372人

◎冬期休業中に課題意識に応じた気付きを大切に交流・協働型のポスターセッションと、有識者の鼎談を行うことで、参加者の高い満足度となった。

＜授業改革協力員による授業公開 (H25研修会後のアンケート)＞



授業公開前に指導案検討や模擬授業等を校内で行う機会を設けている

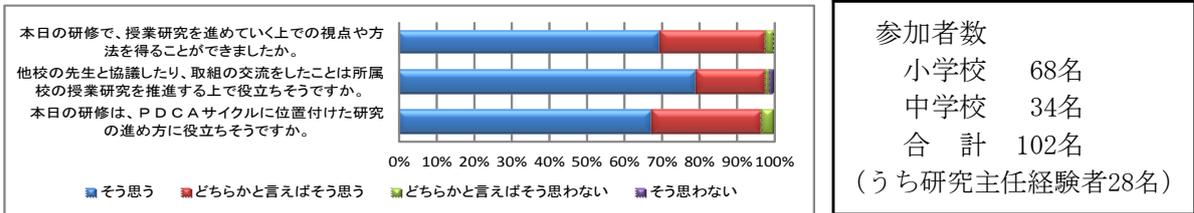
公開授業後の協議会において、参加者全員による活発な意見交換ができるような工夫を組み込んでいる

◎小学校では授業公開に向けての指導案検討や模擬授業等の校内での実施、公開授業後に活発な意見交換ができるような工夫を十分行っている学校の割合が昨年度より上昇した。

▲中学校では、昨年度に比べ、授業公開に向けての取組、授業公開後の取組の実施割合が下がっている。

▲「授業改革協力員が授業公開をしても参加人数が少ない。」「他校の授業公開に参加したいがなかなか日程が合わない。」などの課題がある。

＜研究主任実践力アップ研修会の実施（H25研修会後のアンケート）＞



- ◎参加者の多くが各校で校内研究を進める上で視点や方法を得ることができ、研修会に満足している。
- ◎初めて研究主任になった教員を主な対象としたので、お互い不安な思いを共有しながら実践について相談したり、研究主任経験者に相談したりするなど、授業研究を充実させたいという思いをもって主体的に研修に参加する姿勢が見られた。
- ◎各校の授業研究計画を持ち寄り、他校と比較しながら協議をしたり、また大学教授の講義の後、公開授業後の研究協議会のシナリオづくりの演習にグループで取り組むなどしたことが授業研究を充実させることにつながっている。

③ 組織力の向上

＜指導方法等について小・中学校の連携をしている（H25全国調査・学校質問紙）＞

	岡山県	全国	差		岡山県	全国	差
小学校	75.6	69.2	6.4	中学校	85.3	69.5	15.8

◎小・中学校が連携した授業改善については、学校と市町村教育委員会が積極的に取り組み、全国平均を上回った。県調査実施後の小・中学校が連携した研修会は全中学校区で行われている。

＜校長が週2～3日以上授業巡視（H20-25全国調査・学校質問紙）＞



◎小中学校とも校長による授業巡視は進んでいる。特に中学校は大幅に改善した。

④ 学習の基盤づくり

＜放課後の補充的な指導を行う頻度（H25学習指導・生徒指導取組状況調査）＞



- ◎放課後の補充的な学習指導の実施率は小学校81.3%、中学校97.5%と上昇している。
- ▲放課後の補充的な学習指導の頻度については、週に1回以上の割合が中学校は28.2%と少なく、小学校においても70%程度に留まっており、更に充実のための取組が必要である。

⑤ 総括

本県が市町村教育委員会と連携しながら展開してきた学力向上施策は、推進地域に対して、学校全体で授業改善を進める体制づくりのための基盤を整えつつある。しかし、学力向上につながる授業改善や学習習慣の定着に向けた取組・小中連携上の授業研究の内容面での改善は、継続的に解決に取り組んでいくべき課題である。

3. 取組成果の普及

(1) 岡山県の取組成果の普及

○県下小・中学校で実践されている取組の好事例を「学力向上実践校リスト」として、教材や指導案等を「学力向上のための素材集」として、岡山県教育庁ホームページへ掲載。

(2) 美咲町の取組成果の普及

○旭小中一貫教育研究会(H25年11月20日開催) 別添資料

○ポスターセッションフォーラム発表校での発表

(3) 鏡野町の取組成果の普及

○授業公開研究会(H25年10月30日開催) 別添資料

○今後の課題

①学習状況の把握

▲全国及び県調査問題・結果の活用

- ・効果的な改善プランの作成
- ・小中合同研修会の内容面での充実
- ・授業での調査問題の活用促進
- ・学力定着状況たしかめテストの分析と指導改善の充実
- ・課題のある学校・地域への重点的な支援の充実

▲学習到達度確認テスト(学力調査問題を活用した課題集)の活用

- ・活用実践校の成果の普及、研修会での効果的な活用法の周知

②授業力の向上

▲継続的な授業改善への支援

- ・指導主事の集中的・継続的支援による成果の普及・共有
- ・小学校算数の授業力向上のための研修会の充実
- ・授業改革や校内指導体制への指導助言を専門に行う教員等の配置
- ・指導教諭による授業公開の促進
- ・現職CSTの効果的な活用
- ・市町村の取組への支援の充実：各市町村が現状分析に基づく学力向上に向けたアクション計画や目標指標の設定、県による取組の支援・検証(※)

③組織力の向上

▲家庭・地域との連携

- ・地域連携担当の活用、学校支援地域本部事業等の活用、補充学習等への協力促進

▲個に応じたきめ細かな指導の充実

- ・習熟度別指導の充実
- ・習熟度別指導研修における研修内容の焦点化

④学習の基盤づくり

▲学習習慣の定着

- ・「学びのチャレンジコンテスト」のホームページへの登録促進
- ・(※)と同様

▲授業外での学習機会の確保

- ・支援員の配置による小・中学校の放課後等の学習支援の充実

(様式2)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究(小・中学校)」
平成25年度委託事業完了報告書

【推進地区】

都道府県名	岡山県	番号	6
-------	-----	----	---

推進地区名	鏡野町
-------	-----

○ 推進地区として実施した取組の内容

1. 重点課題

- ・ 基礎力の定着と活用力（思考力・判断力・表現力）の向上
- ・ 教職員の授業改善や指導法の向上
- ・ メディア視聴時間の短縮と家庭学習、家庭での読書活動の習慣化のための取組と家庭・地域への啓発

2. 重点課題への取組状況

- 推進校はもとより、町内すべての学校において、各学期学校訪問を行い教員の授業参観を行った。授業や学習環境等について指導助言を行い、主に次の点について共通して指導してきた。
 - ・ 評価規準を定めるだけでなく、その評価規準に照らした児童生徒の具体を想定して授業を行うこと
 - ・ 基礎基本の定着に向けて、朝学習や小テスト、フラッシュ教材等を活用して継続的な取組を行うこと
 - ・ 単元計画を立てる際には、既習事項の確認をレディネステストや前年度行ったNRT全国標準診断的学力調査の結果を活用し、児童生徒の実態を把握して計画を立てること
 - ・ 児童生徒の活用力（思考力・判断力・表現力）の向上を図るために、多様な学習集団（ペア、グループ、班等）を活用して発表や説明、話し合い活動を保証すること
- 推進校においては、先進地の進んだ取組を取り入れるために、10月12日に行われた秋田県湯沢市で開催された学力向上フォーラムに学校長を派遣し、校内研究への参考とした。また、鏡野町学校力向上実践校指定事業の指定校である大野小学校は筑波大学付属小学校に教諭を、同じく指定校の鏡野中学校は八本松中学校（広島県）に主幹教諭を派遣した。（県予算による）
- 小中連携の一環として基礎基本の定着を目的とした町内共通の「春休みの生活の記録・学習課題ノート」を作成し、小学校6年生に配付する。次年度、中学校において年度当初に「春休み課題テスト」を行う。（添付資料参照）

- 学校力の向上を図るとともに教職員の知見を深め、指導力の向上を狙いとした鏡野町全員研修会を8月5日に開催し、岡山大学教師教育開発センター准教授高旗浩志先生を招聘し、「学び合い、支え合う学習集団づくり - その考え方と方法 -」と題し、学習する集団づくりや授業改善についての講演会を開催した。
- 県教委が実施した「学力定着状況たしかめテスト」の結果を受け、各校を訪問し、取組の徹底と今後の対応について依頼を行った。さらに、定着状況に課題がある学校については、各校の結果を町教委が分析し、基礎基本の徹底の取組の具体例や授業改善や指導法の具体を紹介した。
- 中学校区で学力推進委員会を開催し、中学校区内での共通した課題に取り組み授業公開を行ったり、授業規律等について共通の取組を行ったりしてきた。
また、「家庭学習の手引」についても交流しあい、保護者に配付し協力依頼を行うとともに、中学校の定期試験に合わせて「Noメディア週間」に実施し、家庭学習の確立に関わる取組を行った。
- 読書活動の習慣化については、鏡野町図書館協議会の小学校部会と連携し、「町内小学校の連携」、「家庭・地域との連携」等を中心に取組を行った。
- 推進校及び鏡野町学校力向上実践校指定事業の指定校には研究発表会を義務付け、津山教育事務所管内を中心に研究の発信を行った。

研究発表会の概要（町指定事業も含む）（詳細は各校の当日資料参照）

<p>学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究推進校</p> <p>学校名：鏡野町立南小学校 実施日：平成25年10月30日 内 容：公開授業（2年 国語、4年 図画工作、5年 国語）、研究協議、指導助言 助言者：岡山県総合教育センター指導主事 堤 真理子 鏡野町教育委員会指導主事 勝田 俊行</p>
<p>鏡野町学校力向上実践校指定事業指定校（2小学校、1中学校）</p> <p>学校名：鏡野町立大野小学校 実施日：平成25年11月13日 内 容：公開授業（5年 算数）、研究協議、指導助言 助言者：津山教育事務所指導主事 武村佳予子 鏡野町教育委員会指導主事 勝田 俊行</p>
<p>学校名：鏡野町立香北小学校 実施日：平成25年11月28日 内 容：公開授業（6年 算数）、研究協議、指導助言 助言者：岡山県教育庁義務教育課学力向上対策班スタッフ 伍賀 康晶 鏡野町教育委員会指導主事 勝田 俊行</p>
<p>学校名：鏡野町立鏡野中学校 実施日：平成25年11月18日 内 容：研究授業（1年 数学）、研究協議、指導助言 助言者：岡山県総合教育センター指導主事 中野 修一 鏡野町教育委員会指導主事 勝田 俊行</p>

- 町内の各学校には全国学力学習状況調査で明らかになった学力や家庭学習、読書習慣等の課題について、評価項目として挙げ、保護者や地域の方からも評価していただくよ

うにしている。

- 岡山県教育庁義務教育課に推進校の「学習ハンドブック」と「家庭学習の手引き」の資料を提供し、Web ページに掲載していただき、広く情報提供を行っている。（添付資料参照）

3. 調査研究の成果の把握・検証

(1) 基礎力の定着と活用力（思考力・判断力・表現力）の向上について

年度末に行ったNRT全国標準診断的学力調査の結果、推進校では、全校偏差値の平均が国語51.5、算数54.0と平成24年度に対してはやや下がったものの、おおむね良好な結果が出ている。また、2学期末の市販のテストの得点率は、言語87.7%、漢字91.8%、算数の技能では90.3%であった。

活用力については、活用型問題偏差値平均を全国と比較してみると、国語科では、45.8（平成24年度）から53.5（平成25年度）、算数科では、48.3（平成24年度）から52.0（平成25年度）となり、取組の成果が見え始めた。

しかしながら、年末や年度末に行った「たしかめ確認テスト」の結果を見ると、鏡野町全体では県下の平均正答率に対してA問題B問題ともに低く、基礎基本の定着や活用力の向上につながっておらず、さらなる取組とその徹底が必要である。

(2) 教職員の授業改善や指導法の向上について

各校の校内研修や公開授業に参加し授業について指導助言を行ってきた。その結果、小学校においては、評価規準を意識して単元の計画や授業の評価等に生かすことができている。また、各授業の評価規準を定めることにより、本時で児童につけたい力が明確になり、児童にどのような発言が見られたらよいのか、どのような姿が見られたらよいのかを授業前に意識して学習の流れを考え授業を行うようになってきている。

言語活動においても、国語科を中心に各教科領域の特性を生かし、ペアやグループでの発表や説明などを授業中に取り入れてきている。また、ミニホワイトボードや書画カメラを効果的に用い、自分の考えを全体に説明や発表をするなど、表現力の育成を意識した授業構成が積極的になされている。推進校の南小学校では、授業の流れとリンクした「目指す子供像と書くことと話し合いをつなぐための具体的取組」を作成し、日々の授業で活用しながら、授業改善を進めている。

中学校においては、講義式の授業が多く見られていたが、鏡野中学校では「本時の目標（めあて）とまとめ」、「授業の流れ」を明示することを全教員で共通理解し、一定の授業改善が図れた。

(3) メディア視聴時間の短縮と家庭学習、家庭での読書活動の習慣化のための取組と家庭・地域への啓発について

メディア時間の短縮については、「Noメディア週間」の期間については、児童生徒も意欲的に取り組み、家庭の協力も得られやすいが、期間ではない時には、視聴時間の短縮にはつながっていない。

家庭学習について推進校においては、「1日の家庭学習の時間が増えた児童の割合を80%以上にする」という具体的な目標を立て前期と後期でアンケート調査を行った。前期

と後期では4.4ポイント増（前期：67.9％、後期：72.3％）と若干増えたが、目標には届いていない。町事業の指定校においても、ほぼ同等の結果である。今後は、「家庭学習の手引き」の活用方法を改善していくとともに、保護者への協力依頼や児童生徒の実態の報告を丁寧に行うなどし、家庭と連携した取組を進めていく必要がある。

読書活動について推進校においては、「1か月に読む本の冊数が3冊以上の割合を70％以上にする」という目標を立てて取組を行った。後期の調査では達成した児童の割合が、86.7％に達し、読書週間や読み聞かせ等の成果が表れたと考えている。町事業の指定校において、小学校においては目標の冊数等の違いはあるが、ほぼ同様の成果が出ている。中学校においては大きな変化は見られていない。

小学校での成果は、鏡野町図書館協議会小学校部会の「『おすすめの本』の紹介カード」の取組も成果をあげていると思われる。この取組は、各学校の児童が作成した「『おすすめの本』の紹介カード」を校内だけの交流だったものを平成24年度から他校とも交流を行っており、今年度は交流回数を増やし交流の仕方も工夫して行った。このことにより、児童の読書意欲が向上し、読書の幅が広がっている。推進校や指定校以外の学校ではあるが、この交流を行う前後で、学校図書館の利用児童数が1か月あたり1人2.3回から9.8回に向上したという報告もある。

4. 今後の課題

(1) 基礎基本の定着と活用力の向上

推進校においては、活用力に成果が表れ始めているが、鏡野町全体では、基礎基本、活用力とも課題がある。

基礎基本については、児童生徒の実態をNRT全国標準診断的学力調査の結果や全国学力学習状況調査を自校採点し、課題を早期に把握し対応していく必要がある。具体的には、朝学習の実施、授業中のミニテストの活用、放課後や長期休業での補充学習の実施を各学校に促すとともに、中学校区での学力推進委員会で各校の取組や成果を交流しあうように働きかけたい。

活用力の向上においては授業改善をさらに進めていく必要があると考えている。今年度同様、評価規準を明確にし、それを満たす児童生徒の具体的な姿をもって教師が授業を行えるよう、学校訪問や校内研究を通して指導助言を行っていききたい。

さらに、来年度は鏡野町学校力向上実践校指定事業の指定校を小学校3校、中学校1校とし、思考力、判断力、表現力といった活用力の向上を視点に研究を推進させ、授業公開等を行い研究の成果を外部にも発信していきたい。

(2) 家庭学習の習慣化

家庭学習については、各校で作成している「家庭学習の手引き」を充実させていくとともに、授業とリンクした課題（宿題）を各校で工夫させたい。また、中学校区で取り組んでいる「Noメディア週間」に並行して家庭学習を促進するような取組を行うよう学力推進委員会に働きかけを行う。

(様式3)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究(小・中学校)」
平成25年度委託事業完了報告書

【推進校】

都道府県名	岡山県	番号	6
-------	-----	----	---

推進校名	岡山県鏡野町立南小学校
------	-------------

○ 推進校として実施した研究内容

1 重点課題

- (1) 活用力(思考力・判断力・表現力)の向上を図るため、各教科の特質に合わせた言語活動の充実による授業改善の方策研究を進める。
- (2) 国語科の基礎力としての言語力の向上を図るため、特に「書く力」の育成に取り組む。
- (3) 家庭学習(自主学習)へ積極的に取り組み、環境の構築を図る。

2 重点課題への取組状況

- (1) 活用力(思考力・判断力・表現力)の向上を図るため、各教科の特質に合わせた言語活動の充実による授業改善の方策研究を進める。

①校内研修における授業改善の取組

・研究テーマ

「相手や目的に応じて、自分の思いや考えを表現できる子どもの育成」
～効果的な言語活動を展開して、表現する力を高める～ *教科、領域は限らない。

・研究テーマの具体化

取組の方法としては「話し合い」や「説明」などの「活用」部分にポイントを絞り、より具体的な授業改善を目指した。教科や単元に合わせ、授業の流れを「つかむ」→「向き合う」→「探究する」→「振り返る」と統一し、1時間の学びが確かなものとなるよう全職員で取り組んだ。

朝の活動も、内容を工夫したり、繰り返して練習をしたり、授業とリンクさせたりして、書く、話す、聞く、読む、計算するなどの基礎的な能力を高めることができている。家庭学習にも、積極的に取り組む児童が増えた。引き続き、今年度も成果が目に見える形になるよう工夫をし、取組を継続した。

書くことに抵抗を示す児童、語彙の少ない児童もまだ多く見られるので、「探究」の時間がより深まるよう、話し合いの進め方(めざす児童像)をより系統的に展開するため、学年に応じた話形を示して取り組んだ。

今年度は以上のような状況をふまえ、「話し合い」と「書くこと」をつなぐための、効果的な言語活動を推進した。また、めざす児童像や評価基準をより具体的にし、児童につけたい力を明確にして授業研究に取り組んだ。

・研究組織

【研究推進委員会】

*校長、教頭、研究主任、低・中・高学年部、特別支援学級部より各1名ずつで構成。

* 研究推進の基本的な考え方の立案と検討を行い、全校研修会で提案してリードした。

【全校研修会】

* 研究の進め方(内容・計画等)について、協議検討・決定を行い、共通理解を図った。

* 各研究班や学年部等からの報告を出し合い、研究を深めた。

* 研究授業の指導案検討や反省などを行った。

【研究部】：各学年部会から1人以上所属、関係職員がどちらかの班に所属するようにした。

《学力向上班》

授業や朝の活動の中で共通して取り組むことや、その成果と課題について提案をしてリードした。

《生活習慣作り班》

学習に集中できる環境をつくるために、家庭と協力しながら習慣づけするための研究及び提案を行った。

【学年部】

* 研究班や全校研修での提案を受け、各学級で実践したり、授業研究を行ったりした。

・研究内容

【公開授業と研究発表】

◎平成25年10月30日(水) 13:45~16:45

公開授業 2年1組 国語 「やっぴごらん、おもしろいよ」 横川 尚史 教諭

4年1組 図画工作「見つけたことを伝えよう」 小坂 智子 教諭

5年1組 国語 「くり返しのはたらき」 段堂 雅信 教諭

指導助言 講師 岡山県総合教育センター 堤 麻理子 指導主事

鏡野町教育委員会 勝田 俊行 指導主事

【授業担当者全員による研究授業】

◎学年部代表による全校研修研究授業と部会内研究授業を実施して研究を深めた。

指導案の作成は、授業者と所属学年部を中心に行う。研究授業に先立っての全校研修は提案された指導案の共通理解の場とする。授業後は全体会で研究協議をもち、考察及び反省を行った。部会内研究授業の反省は、部会内で実施した。

②通常授業での「話し合い」や「書くこと」の言語活動の取組

・日々の授業の中でも意識して、「話し合い」や「書くこと」の言語活動に取り組んだ。

・進捗状況のチェックは、管理職による観察授業で実施した。

◎観察授業実施期間(A・B・C3クールの年間3回)

A：平成25年 5月13日(月)~平成25年 5月24日(金)

B：平成25年 9月30日(月)~平成25年10月11日(金)

C：平成25年11月25日(月)~平成25年12月 6日(金)

・観察授業評価返信シートで各授業者に取組の進捗状況を伝えて称揚したり、授業での課題を指摘したりした。

(2) 国語科の基礎力としての言語力の向上を図るため、特に「書く力」の育成に取り組む。

①話し合い活動を助ける書く活動の実践

・低学年を中心に、「話し合い」の表現活動を助けるための工夫として、授業の振り返りや話し合う内容をノートやワークシートに書かすことで児童に確認させる活動を取り入れた。

②共書き活動の実践

・授業の導入時、学習のめあてや学習課題を確認するため、児童にノートに書かせる取組を実践した。単なる視写ではなく、指導者が話す内容を耳から聞いて書き取る「共書き」を

実施した。

③朝の活動での基礎基本の徹底の実践

- ・書く、話す、聞く、読む、計算するなどの基礎的な能力を高める時間になっている「朝の活動」で、特に「書く」活動を多く取り入れた。国語の作文や漢字の学習だけでなく、算数科でも書く活動を多く取り入れるよう工夫した。

(3) 家庭学習（自主学習）への積極的な取り組み環境の構築を図る。

①家庭学習での自主学習実践の取組

- ・低、中、高学年ごとに作成して児童と家庭に示している「家庭学習の手引き」を再度改訂した。自主学習の内容を具体的に示して、児童や保護者が自主学習に取り組みやすくした。

②基礎学力向上補充学習の取組

- ・家庭学習だけでは、保護者と連携した自主学習の取組ができにくい家庭があるため、放課後を利用して基礎学力向上補充学習を実施した。

◎基礎学力向上補充学習の実践

実施期間：平成26年 1月16日（木）～平成26年 3月11日（火）

実施時間：各学年週1回放課後の1時間 全7回の実施

対象児童：3年生以上の参加希望児童（各学年定員20名）

学習内容：算数科の基礎学習並びに自主学習

指導者：外部講師（契約報酬による。）

3 調査研究の成果の把握・検証

(1) 平成25年度鏡野町教育委員会実施学力診断テストでの活用力の向上の成果

①国語科（4年生以上で昨年度と比較して成果が見え始めた。）

活用型問題偏差値平均の全国との比較 H24年度【45.8】⇒H25年度【53.5】

②算数科（4年生以上で昨年度と比較して成果が見え始めた。）

活用型問題偏差値平均の全国との比較 H24年度【48.3】⇒H25年度【52.0】

(2) 平成25年10月30日（水）実施の研究公開での成果

①3つの研究授業公開では、授業改善でのポイントである「話し合い」と「書くこと」をつなぐための効果的な言語活動の推進を学年部ごとに示すことができた。

②研究協議の指導講評でも、取組の方向性について適切であるとのこと示唆をいただき、児童の活動に成果が表れているとの評価もいただけた。

(3) 平成25年度実施学校評価書で振り返る授業中の表現活動の成果

①平成25年12月実施「後期学校評価書」

- ・「1学期より授業中の説明や話し合い活動が充実して考える力が増した」と感じている児童と教職員の割合が95%以上となり、期待値を大きく上回る結果となった。

4 今後の課題

(1) 平成25年度実施学力診断テストの活用型問題では、4年生以上でいくらか成果が表れた結果となった。全体的には、5・6年生は今一つだったが、4年生の好結果が全体の成果につながった実態があった。学校全体の活用力向上に向けて、「話すこと」や「書くこと」に力を注ぐだけでなく、さらなる工夫に取り組まねばならないと考えている。

(2) 授業改善のポイントである「話し合い」と「書くこと」をつなぐための、効果的な言語活動の推進については、活用力の向上のためにさらなる工夫の必要性を模索している。思考、判断、表現力の活用力を伸ばすための具体的なアイテムを探し出し、習得と絡ませながら授業で展開していく必要があると感じている。

(様式2)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究(小・中学校)」
平成25年度委託事業完了報告書

【推進地区】

都道府県名	岡山県	番号	6
-------	-----	----	---

推進地区名	美咲町
-------	-----

○ 推進地区として実施した取組の内容

1 重点課題

- (1) 「基礎学力の定着」と「思考力・判断力・表現力の向上」を目指した積極的な授業改善の推進
- (2) 「家庭学習習慣の定着」を目指した学校・家庭・地域との連携推進

2 重点課題への取組状況

(1) 推進体制の確立・・・「美咲町学力向上推進連絡協議会」

学力向上に関する取組を推進地区全体として積極的に推し進めていくために、今年度新たに「美咲町学力向上推進連絡協議会」を立ち上げ、学力向上に関する取組について、継続的に協議を行ってきた。協議会の参加メンバーや協議内容については、以下のとおりである。

メンバー

校長・教頭・学力担当者（教務主任または研究主任）・5年6年担任・教育委員会（県義務教育課・教育政策課・津山教育事務所）

協議内容

- 第1回目 <5月23日>
 - ・学力向上に関する町の方針説明
 - ・全国学力・学習状況調査の自校採点結果を基にした共通課題の洗い出し
- 第2回目 <8月2日>
 - ・美咲町の学力に関する現状と今後の方向性の説明
 - ・「美咲町共通課題」に対する各校の取組についての交流

○第3回目 <12月9日>

- ・美咲町統一テスト（第1回目の速報）
- ・先進校視察報告会
- ・第2回目以降の進捗状況の交流

○第4回目 <3月3日>

- ・美咲町生活・学習状況アンケート結果の説明
- ・今年度の取組のまとめと来年度への展望



(2) 「グランドデザイン」「アクションプラン」「共通課題」の策定

推進地区すべての学校で取組の方向性をひとつにし、その取組の具体化や明確化を図るために、「美咲町学力向上基本構想」「美咲町学力向上アクションプラン」「美咲町共通課題」等の策定を行った。

アクションプラン(抜粋)



美咲町共通課題

- 漢字・計算の徹底
～まずは基礎・基本から～
- 「書く」時間の確保
～自分の考えを自分の言葉で～
- 読書活動の推進
～読む力を育てるために～
- 「習得」と「活用」のある授業
～あきらめず・繰り返し～

(3) 全国学力・学習状況調査の積極的な活用

学力向上のための効果的な指導を行っていくためには、児童生徒の実態を詳細に把握したうえで、課題を的確にとらえる必要がある。そこで、「全国学力・学習状況調査」の結果を、今年度の結果のみならず、過去5年間の結果についても積極的に活用しながら、課題の洗い出しを行っていった。

①「H25全国学力・学習状況調査」自校採点

8月の正式な結果を待っている間は、課題把握やその後の取組が遅くなってしまふ。早期の課題把握・取組を行っていくために、調査実施直後に推進地区全校で国語A・B、算数・数学A・Bすべての解答について自校採点を行い、教育委員会で集計・分析・フィードバックを行った。また、この結果をもとに、前述の「美咲町共通課題」の洗い出しと取組の方向性を決定した。

②過去5年間「全国学力・学習状況調査」結果の分析

県総合政策局政策企画員へ協力を依頼し、過去5年間「全国学力・学習状況調査」結果の詳細分析を行った。後日政策企画員より、「町全体としての課題は何なのか」「それぞれの学校ごとの独自の課題は何なのか」を各校（中学校区）ごとに説明をしていただき、その後の取組の大きな指針となった。

（4）基礎・基本の徹底

上記（3）の分析結果より、推進地区全体としての最重点課題は、「基礎・基本」にあることが明確となった。そこで、全ての学校で「基礎・基本」の徹底を図っていくために、美咲町独自の統一テストの実施と、各校の「基礎定着プリント」の作成・見直しを積極的に行っていくこととした。

①美咲町統一テストの実施

目的

- 教科学習の基礎となる漢字・計算・英単語力を確実に身につけさせることにより、学習意欲の向上と基礎学力の定着を目指す。
- 児童生徒の漢字・計算・英単語の定着状況を把握し、指導の改善・充実に役立てる。

実施方法

《小学2年生～6年生》

- ①共通課題（各学年 漢字100問・基礎計算100問）を教委が作成
- ②各校で反復練習（朝学習・授業の冒頭・放課後）
- ③1回目テストの実施（各学年 1教科につき20問 15分） 2学期
- ④教委が採点・集計・結果のフィードバック
- ⑤学校で定着状況の確認・指導・反復練習
- ⑥2回目テストの実施（各学年 1教科につき20問 10～20分） 3学期
- ⑦教委が採点・集計・結果のフィードバック
- ⑧学校で定着状況の確認・指導・反復練習

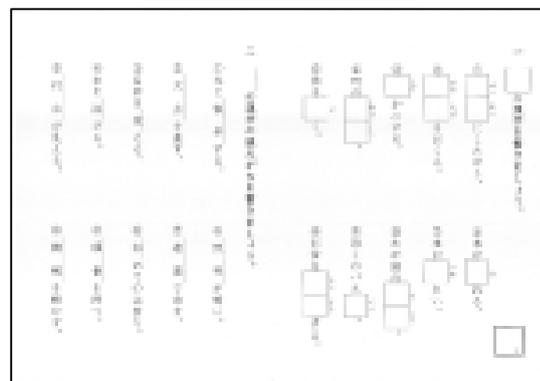
《中学1年生～3年生》

小学校に英単語100問を加え、同様に実施。

②各校の「基礎定着プリント」の見直し

『算数名人』『計算名人プリント』『これっさり算数』『漢字検定プリント』『英語チャレンジテスト』『数学チャレンジテスト』『国語チャレンジテスト』等、各校で作成・見直しを行った「基礎定着プリント」を、美咲町のフォルダにアップし、どの学校でも活用したいときに活用したいプリントを自由に活用できるようにした。

5年漢字テスト



(5) 授業改善や校内研修の充実による指導力の向上

学力向上のためには、学校での「授業改善」が一番の近道ということで、推進地区各校での研修内容の充実や、推進地区全体での指導力の向上を目指して、以下の取組を行ってきた。

①校内研修・公開授業等への訪問指導

県義務教育課・県総合教育センター・町教育委員会等の指導主事による積極的な指導・助言

②町教育研究会の活性化

一人一研究授業 授業日時・内容等の共通フォルダへのアップ

③全員研修会

○講師 筑波大学附属小学校 細水 保宏 副校長

○内容 ・模擬授業（小学校3年生 算数）

・研究協議

・講義 「思考力・表現力を育てる授業づくり ～算数のよさや
美しさ、考える楽しさを味わわせる授業づくりのコツ」

④積極的な先進校視察と学校課題に合った講師の招へい

(6) 家庭学習習慣の定着

「家庭学習意欲の向上」「家庭学習の定着と家庭学習時間の増加」「メディアとの接触時間の減少」等、家庭学習習慣をきちんと定着させ、内容の充実を図っていくため、以下の取組を行ってきた。

①教育番組「みさきっ子テレビ教室」の制作・放映

目的

○児童生徒の学習意欲の向上と家庭学習の定着

○町民の教育に対する理解促進と、教育効果促進に向けた環境づくり

内容

○ポイント学習（つまずきやすい問題等をポイント的に指導 15分）

○学校の活動紹介（学校の取組や行事等の紹介 15分）

放映

○平日1回 土日2回 CATVにて放映 月1～2回更新

②町PTA連合会との連携

単P（各校PTA）の活動や取組の柱の中に、必ず「メディアとの付き合い方」「家庭学習」「読書活動の推進」等のテーマを入れていただき、年間を通じて協議等を行ってきた。

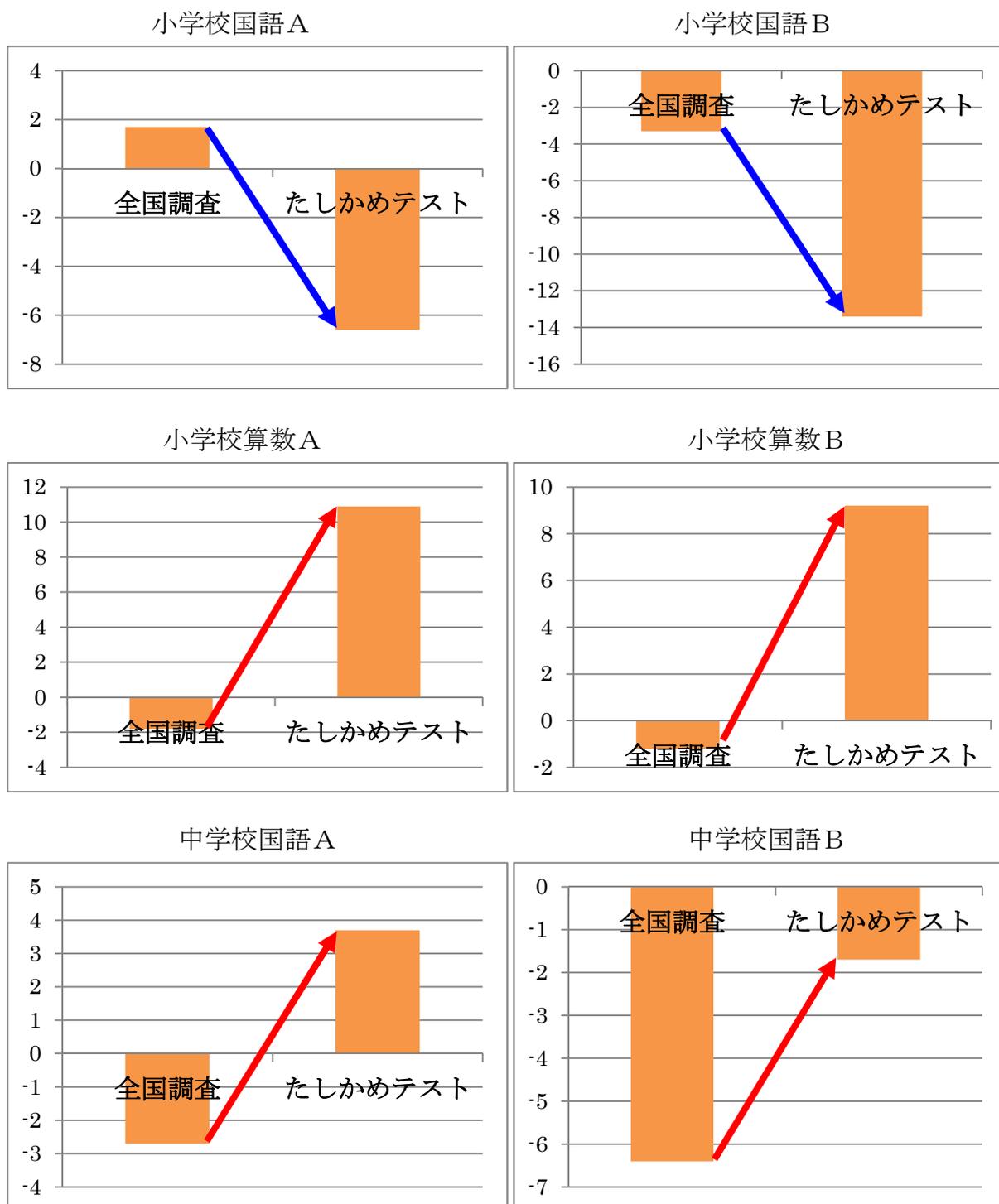
③美咲町生活・学習状況アンケートの実施

推進地区児童生徒（小学校5年以上）の生活・学習状況について独自の調査を行い、現状を把握するとともに、全国調査の昨年度・今年度の結果と比較をしながら、取組の成果や課題の検証を行った。

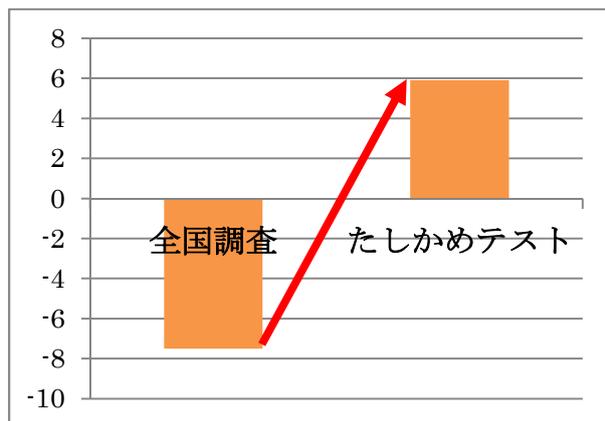
3 調査・研究の成果の把握・検証

研究実施計画書では、「検証の手立て」として、①岡山県が実施する『学力定着状況たしかめテスト』で学力の伸びを比較すること。②町独自の「生活・学習状況調査」を実施することで、家庭学習状況の改善の状況を検証することを挙げ、それに基づき検証を行った。

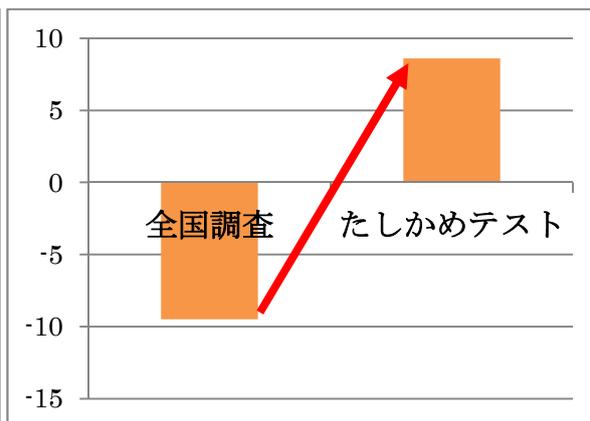
- ①「全国学力・学習状況調査」と「学力定着状況たしかめテスト」との比較
(※全国平均を0とした場合の比較グラフ)



中学校数学A



中学校数学B



上記グラフからわかるように、小学校国語A・Bについては4月の結果を下回るものの、その他の結果については、改善傾向にある。推進地区全体での学力向上に対する教職員の意識の向上、取組の徹底による成果と考える。

②「美咲町生活・学習状況アンケート」での検証

「H24 全国学力・学習状況調査」では、平日の家庭学習時間（1時間以上）の割合が、小学校6年生で35%と全国平均に比べ20p以上も低かったため、右記のような数値目標を立て実践を行ってきたが、小学校・中学校とも目標を上回る結果となった。

「メディアとの接触時間」についても、PTAとの連携により、大きく改善傾向にあると言える。

平日の家庭学習時間1時間以上の割合

	H25 当初目標	2月結果
小学校高学年	55%	58.3%
中学校	60%	62.1%

平日のTV・DVD・VTR2時間以上の割合

	4月結果	2月結果
小学校6年	65.3%	60.9%
中学校3年	63.1%	50.9%

4 今後の課題

今年度は、「基礎・基本の徹底」に重点を置いた取組を進めてきたため、「基礎学力の定着については一定の成果が見られたものの、「思考力・判断力・表現力の育成」の部分については、十分な取組ができていない。「基礎・基本の徹底」の取組は継続しながら、さらに活用力を育てていくための授業改善や教育活動の展開を今後工夫していきたい。特に「言語活動の充実」といった観点に視点を当てながら、全ての教科において活動の充実を図っていきたい。

また、家庭学習状況についても、少しずつ改善傾向にはあるものの、まだまだ全国平均に達していない学年もある。PTAとの連携の部分で今年度は一歩前進できたため、今後はさらにその連携を強め、また地域の人材や教育力も活用しながら、推進地区全体で家庭学習状況の改善を図っていききたいと考える。

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究（小・中学校）」
平成25年度委託事業完了報告書

【推進校】

都道府県名	岡山県	番号	6
-------	-----	----	---

推進校名	岡山県美咲町立旭小学校
------	-------------

○ 推進校として実施した研究内容

1 重点課題

- (1) 小中が連携を図りながら、問題解決的な学習の展開や話し合い活動の工夫によって児童の「考える力」の育成を図り、学力の向上を目指す。
- (2) 家庭学習の習慣化や学習規律の確立等、学力向上の基盤づくりを行い学力の向上を目指す。

2 重点課題への取組状況

- (1) 小中が連携を図りながら、問題解決的な学習の展開や話し合い活動の工夫によって児童の「考える力」の育成を図り、学力の向上を目指す。

① 取組の方向性

本校児童の実態については、基本的な学習習慣が定着し始め、学習意欲も少しずつ向上してくるなど改善傾向もみられている。しかし、依然として学力の基礎・基本が定着しておらず、思考力や表現力においては大きな課題がある。現状の改善に向けては、長期的視点からの対策と短期的視点からの対策の両面から迫る必要があり、中学校と連携して取組を進めていくことも不可欠であるとする。

そこで、本校及び旭中学校では「考える力」に焦点を当て、授業の中で児童・生徒が主体的に思考できる場面を意識的に設定することで、学習意欲や思考力の向上を目指すことにした。

② 「考える力」を育成するための組織と計画（経過）

ア 組織

○研究推進委員会

小中共に校長・教頭・研究主任・教務主任と今年度から中学校の分掌に位置づけた小中一貫コーディネーターによって構成し、研究の進捗状況の確認と方向付けを行った。小中一貫コーディネーターは、小学校との兼務とし、週3回小学校に出向いて、6年生を中心にTTでの授業や連絡調整を行い、小中一貫での学力向上の推進の中心的役割を担った。

○授業づくり部会

文系、理系、支援の3部会に分け、小中の教員がいずれかに所属して授業研究を推進する。
・部会構成 文系部会（国語・社会等の教員中心） 理系部会（数学・理科等の教員中心）
支援部会（特別支援学級の担任を中心） ※いずれも5～8名程度で構成

○基盤づくり部会

教務、養護、栄養、事務によって構成。小中で共通理解、統一できることを検討し、学力向上の基盤になることを研究、提案、実践する。（アウトメディア週間、読み聞かせ等）

○全体会…全体に係る授業研究の反省と研究の方向付けを確認する場とした。

イ 計画(経過)

5月…全体会(2回)、研究授業(小1国語) 6月…授業研究(小4国語、中3道徳)
7月…授業研究(小6社会、中3数学)、全体会 8月…全体会 9月…授業研究(中支援、
中3社会) 10月…全体会、授業研究(中3国語、小5理科、小3算数、小支援)
11月…全体会、研究発表会(小5算数、中3英語、中支援) 12月…授業研究(中1社会、
小2算)

※ 年度当初に、小中学校全教員の研究授業計画を作成し、計画的に研究を進めた。

③授業づくりの実際

岡山県総合教育センターから指導主事(西林哲郎指導主事)を招聘し、年間を通じて「ゴールデザインを明確にした授業づくり」に取り組んだ。まずは、一時間の授業を「授業の最後に児童の言葉でどうまとめられるようにするのか」を考えることから始め、授業の目標設定、発問の精選、考えを文字化する時間の設定、机間指導のポイント、思いを表現しあう

場の工夫、習熟の時間の確保等について計画を立てるようにした。それを、一時間の板書計画に表し、毎時間の実践の積み上げをしていった。算数科では「めあて→個人思考→集団思考→まとめ」の授業モデルを作って授業公開を行い、それぞれの教員がその授業展開をパターン化することで、児童が見通しを持って学習に取り組めるようにした。

また、今年度の研究主題に沿った「授業参観シート」を小中合同で作成し、授業研究時の授業評価や日常の授業の自己評価に活用した。

(2) 家庭学習の習慣化や学習規律の確立等、学力向上の基盤づくりを行い学力の向上を目指す。

学習したことの定着を図ったり、学習意欲を高めたりするためには、家庭学習の習慣化と内容の充実は欠かせない。そこで、中学校と連携したメディアを制限する期間の設定や小学校独自のチャレンジカードによる家庭学習を定着させる取組、さらに地域の学校支援ボランティアによる放課後子ども教室などの実施により、家庭学習習慣の確立を図った。

① アウトメディア週間

本校及び旭中学校の児童・生徒には、極端に多いメディア接触が見られる。これは、広い学区内に児童・生徒が点在するという過疎地の実情による、幼少期からのTV視聴及びゲーム機操作の習慣からくるものと推測される。そこで、本校及び旭中学校では、TVやゲーム、PCとの接触を制限し、望ましい生活習慣づくりをしていく必要があると考え、中学校の定期テスト期間に合わせて、家族ぐるみでメディアとの接触時間を2時間以内に制限する「アウトメディア週間」を実施している。



グループ協議による授業反省



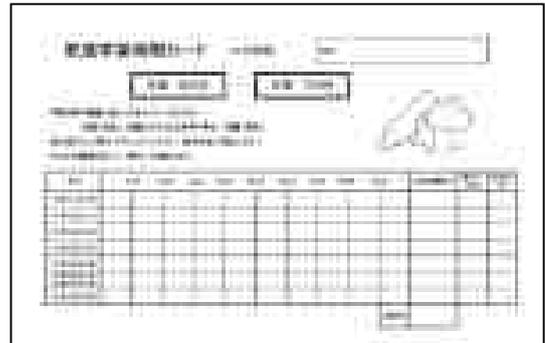
旭小中合同保護者会

取組の成果については、「アウトメディア通信」で児童・生徒・保護者に集計結果や感想などを盛り込んで発信している。また、長時間のメディアとの接触が、児童・生徒の心と体におよぼす悪影響について、「小中合同保護者会」などの場で語り合ったり講演を聴いたりして理解を深めてきた。

さらに、学習時間の調査も行い、この取組の結果から生まれてくる貴重な時間を、家庭学習の時間へと導けるようにした。

② 家庭学習チャレンジ週間

宿題の提出はもちろんのこと、低・中・高学年別に設定してある「家庭学習のめやすの時間」を意識して自主的な家庭学習ができるよう、家庭学習の手引きを作成している。今年度は、年間5回の「アウトメディア週間」に合わせて、「家庭学習チャレンジ週間」を設定して意識付けを行った。家庭学習で頑張った内容と時間を色で塗り分けて、視覚で確認できるカードを作成して取り組んだ結果、どの学年も意欲的に頑張り、平均学習時間は目標を達成することができた。今後は、特設週間だけでなく、習慣として定着できるよう指導していく。



家庭学習時間カード

③ 「寺子屋あさひ」

放課後、児童・生徒が家庭や地域でどのように過ごすかは、学力向上と大きな関係があると思われる。学区に塾がなく、教育機関は学校のみという環境のため、今年度4月より学校地域支援本部事業のコーディネーターが中心となり、子どもの学力向上を目的としたボランティアを募り、小中学生を対象にした「放課後子ども教室（「寺子屋あさひ」）」を毎週2回開校している。平成26年2月現在、小学生は、全校児童95名のうち21名が教室に通っている。



寺子屋あさひ

(3) 外部講師の招聘と先進校視察

①外部講師の招聘

大学関係者や岡山県総合教育センター指導主事等の指導により、研究の方向性を定め、研究授業にも参加していただき、指導のあり方や授業力向上につながる具体的な助言をいただいた。

- ・岡山大学岡崎正和准教授による全体研修会での講演
「基礎基本の定着と表現力向上を目指した授業づくり」
- ・県総合教育センター指導主事（河本尚指導主事、荻田直樹指導主事）による研究授業指導講評、研究や基礎学力定着に向けてのアドバイス

② 先進校視察

学力向上に取り組んでいる先進校や小中一貫での研究を進めている学校の研究会への参加で先進的な取り組み事例や研修のあり方、指導法の工夫等の情報を得た。それを研修の場で共有することができたので、今後の自校の実践の見直しや指導力向上に生かすよう努めていきたい。

- ・研究会参加・・・秋田県学力向上フォーラム（湯沢市立湯沢北中学校、湯沢東小学校）、広島県福山市立曙小学校研究会、研数学館・指導力アップのための算数数学連続セミナー、広島県尾道市立土堂小学校研究会、香川大学附属小学校研究会、教育セミナー九州2013、筑波大学附属小学校研究会）

（４）学力向上のためのその他の対策について

① 朝学習・授業開始後の時間の活用

1学期は、前年度と同じく、毎朝10分間の帯タイムを全校読書タイムとして取り組んだ。しかし、岡山県や全国の学力テストの分析から、基礎・基本の更なる徹底が全学年で必要と考え、2学期から時程を変更し、毎朝10分間行っていた「朝読書」を、毎朝15分間の「朝学習」に切り替えることとした。

月曜と金曜は読書、火曜日と木曜日は算数、水曜日は国語と振り分けている。必ず担任が教室にいて、プリント等は答え合わせや直しも含めて、全員が理解できるまで指導している。

算数は、現在学習している内容に加え、既習事項の基礎を徹底するプリントや計算の正確さと速さに挑戦するプリント等を活用している。また、国語は、漢字学習を中心として行い、進級式テスト等を活用している。どちらもできるまで繰り返すことで、児童が自信や意欲を持つことができるようにしている。

読書の時間は、15分間集中して読めるように指導を徹底しているが、読書週間や読書カード・感想画ギャラリー等、意欲付けの工夫も行っている。また、旭図書館と連携して、月間の学級への貸し出し数の倍増を図って学級文庫を充実させる等、読書活動の広がりを図るために、常に手元に本を置いておける雰囲気作りを行っている。

国語や算数の学習では、授業の始まるの時間を利用して、学級の実態に応じた「ミニ漢字テスト」や「百ます計算」等に計画的に取り組んでいる。

② 「美咲町統一基礎テスト」

美咲町全体として基礎学力の向上を目指そうということで、「美咲町統一基礎テスト」が実施されることとなった。各学年とも前学年までに学習した漢字・計算の中から100問が設定され、その中から20問が出題されるという方法で、年2回実施した。朝学習や家庭学習・自主学习等で取組を進めるとともに、事前にプレテストを行って自分の達成度を振り返りながら取組を進めた。本番では、全学年が「平均80点以上」を達成した。

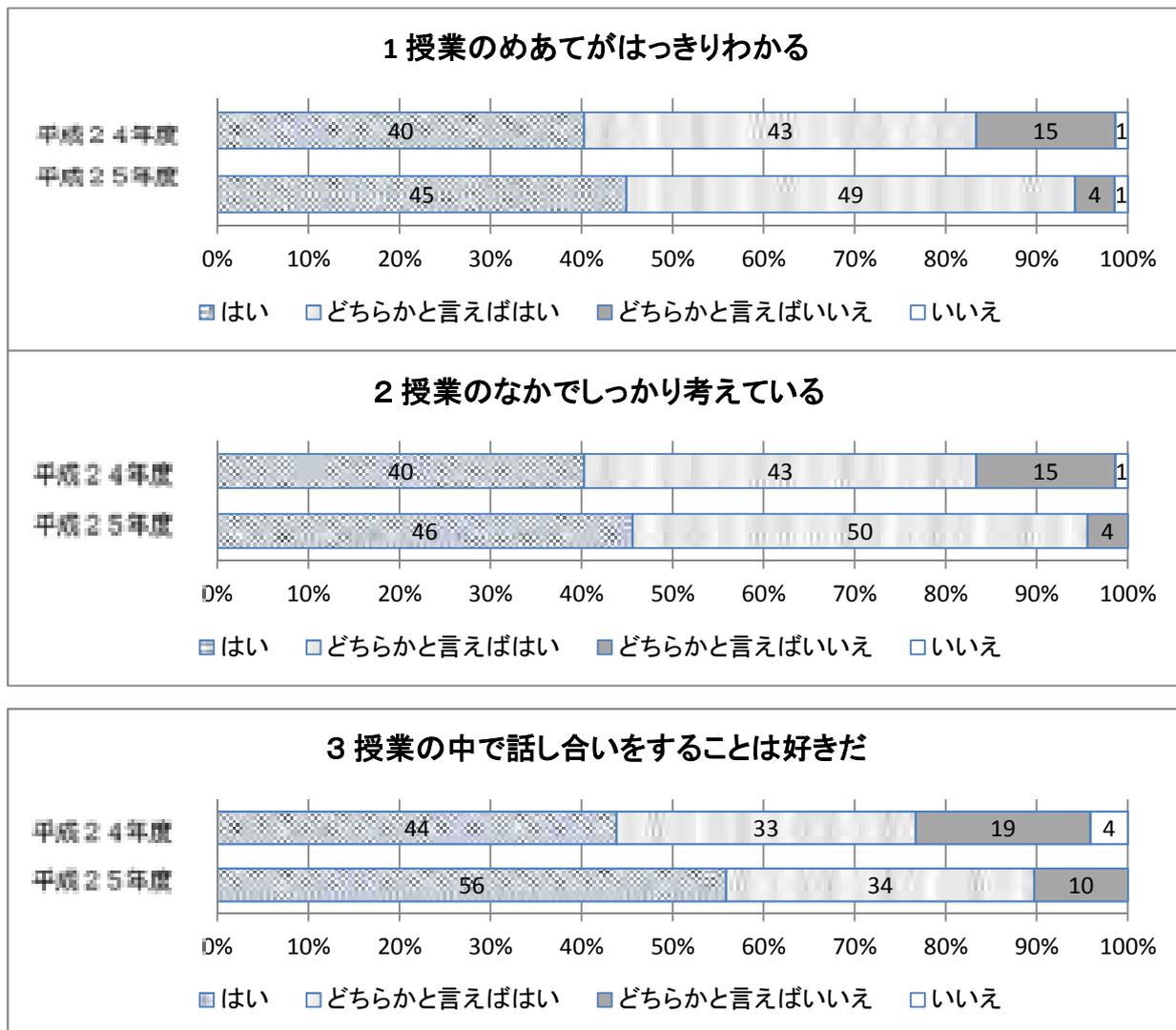
③ 漢字検定

民間で広く行われている漢字検定に、旭小学校では以前から取り組んできており、準会場として年間3回程度の受検機会を提供してきた。毎回、全児童の3分の2程度が受検しているが、今年度は、それぞれの目標に向けて過去の出題問題等にも取り組んだ。

2 調査研究の成果の把握・検証

問題解決的な学習の展開による「考える力」の育成については、昨年度より児童・生徒に「教室の様子」と称したアンケート調査を定期的に行うことで、その実態や変容ぶりを把握し、指導に生かしている。

質問項目の内、以下の3つの項目について抽出し、昨年度と本年度の様子をグラフで比較すると次のようになった。

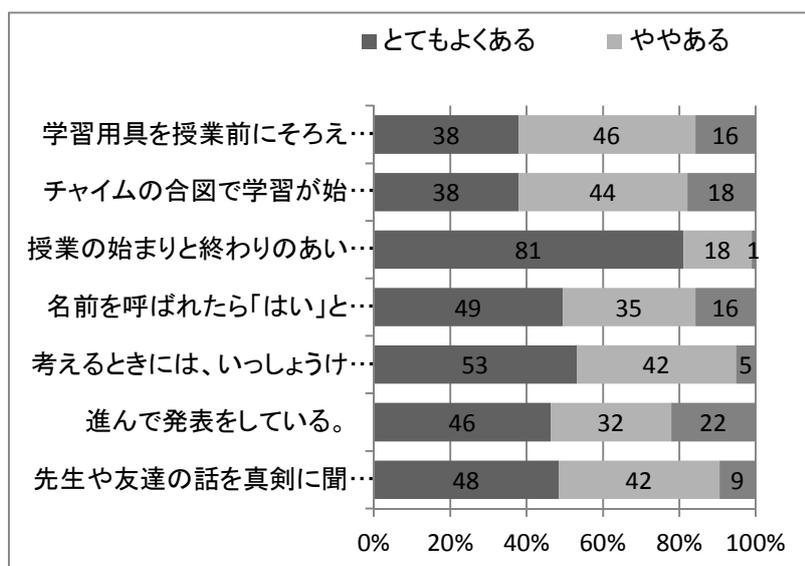


この3つのグラフから、「授業のめあてがわかる」「しっかり考えることができる」「授業の中で話し合いをすることは好きだ」のすべての質問で肯定的回答をした児童の割合が、昨年度より今年度の方が増えていることがわかる。

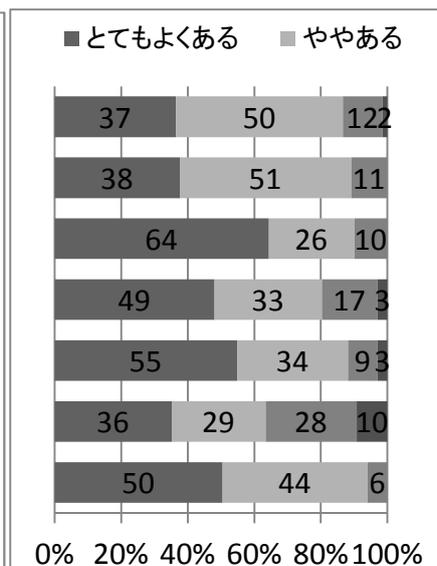
これらの結果から「めあて→個人思考→集団思考→まとめ」の授業展開を全教科でパターン化した指導をすることで、児童が見通しを持って授業に取り組み、前向きに考えたり話し合ったりすることで理解が深まっていると感じていることがわかる。実際に授業での話し合いの場面でも、児童は、しっかりと考え、その考えを隣の児童に、そしてグループや学級内で表現することに次第に慣れてきている。

また、学習の基盤づくりとしての学習規律の徹底についても「7つの約束」の取組を継続して行い、児童に意識付けを行ってきた。以下に示したとおり、昨年度のアンケート調査とグラフで比較すると、特に、「あいさつをきちんとする」「いっしょうけんめい考えている」「進んで発表をしている」という項目で、よくできていると自己評価している割合が増えていることがわかる。

《平成25年度 7つの約束》



《平成24年度 7つの約束》



朝学習も軌道に乗り始め、5年生を対象とした岡山県の「学力定着たしかめテスト」では、算数の計算問題の正答率が、県平均を大きく上回った結果が出た。また、「美咲町統一基礎テスト」においては、漢字・計算のどちらも、全学年が目標としていた平均80点以上を達成した。

さらに、アウトメディア週間に合わせて実施した家庭学習チャレンジでは、全学年で「学年×10分+10分」という「学習のめやすの時間」を達成することができた。今後は、特設週間だけでなく、習慣として定着できるようさらに取組を進めていかななくてはならない。

このように、目に見える形で、学習の手応えを児童自身が感じられるようになっていることは、今後の学力向上に向けて最も大切な基盤となる「学習意欲」して生きてくると思っている。

3 今後の課題

今年度、思考力・表現力の育成を目指し、ゴールデザインを明確にした授業づくりに取り組み、学習のめあてに対するまとめを書いたり、自分の考えを言葉として書き表したりする活動を積み重ねてきた。一方、朝学習や授業の始まりの時間の継続的な取組で、基礎・基本の定着を図ってきた。年度途中からの取組もあったため、今後、見通しをもって効果的に取り組めるように内容を整理し、以下のことについて、中学校と共通理解を図りながら充実させていく必要がある。

(1) 授業力の向上

- ・ゴールデザインを明確にした授業づくり
- ・すべての児童に思考力を育成するためのユニバーサルデザインの授業のあり方

(2) 基礎・基本の定着

- ・朝学習を活用した効果的な基礎学力定着のための学習
- ・放課後学習を活用した個々の課題やつまずきに応じた指導

(3) 中学校との連携

- ・9年間を見通した児童生徒の発達段階ごとの必達目標の作成
- ・研修組織の見直しによる授業づくりと課題別部会での取組

(4) 家庭学習の定着

- ・学習意欲の喚起の工夫
- ・家庭、地域と連携した望ましい生活習慣・学習習慣作り

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究（小・中学校）」
平成25年度委託事業完了報告書

【推進校】

都道府県名	岡山県	番号	6
-------	-----	----	---

推進校名	岡山県美咲町立旭中学校
------	-------------

○ 推進校として実施した研究内容

1. 重点課題

- (1) 小中一貫・連携教育をとおして、「話し合い」を中心に据えた問題解決的な学習の展開によって生徒の「考える力」を培い、学力の向上を目指す。
- (2) 家庭学習等、学力向上の基盤となる要件の改善を行い、家庭学習習慣の確立を図ることによって学力の向上を目指す。

2. 重点課題への取組状況

- (1) 小中一貫・連携教育をとおして、「話し合い」を中心に据えた問題解決的な学習の展開によって生徒の「考える力」を培い、学力向上を図る。

① 取組の方向性

本校生徒の実態については、学習意欲の向上など改善傾向のみられるものもあるが、依然として思考力や表現力、知識理解等においては課題があり、解決のためには長期的視点に立った対策と短期的視点からの対策、両面から迫る必要がある。また、これらの現状は、中学校1校だけでの努力で改善できるものとは考えられないため、小学校との連携は不可欠である。

そのため、本校及び旭小学校では「考える力」に焦点を当て、授業の中で児童・生徒が主体的に思考する場面を意識的に設定することで、学習意欲や思考力の向上を目指すことにした。

仮説①

「めあて→個人思考→集団思考→まとめ」の授業展開をパターン化して指導することで問題意識の継続が期待でき、学習意欲も向上し、自ら考えることができるのではないかと。

仮説②

児童・生徒相互の「話し合い」を授業の中に意図的に設定することで、各自の考えを深めることができ、定着も図られるのではないかと。

仮説③

決まった時間にさまざまなことを書く時間をできるだけ多くの授業に取り入れ、書いて表現することに慣れさせることで、思考したことを表現する力の向上につながるのではないかと。

② 「考える力」を育成するための組織と計画（経過）

ア 組織

○研究推進委員会

小中共に校長・教頭・研究主任・教務主任と今年度から位置づけた小中一貫コーディネーターによって構成、研究の進捗状況の確認と方向付けを行った。小中一貫コーディネーターは、小学校との兼務とし、週3回小学校に出向いて、6年生を中心にTTでの授業や連絡調整を行うようにし、小中一貫での学力向上の推進の中心的役割を担った。

○授業づくり部会

文系と理系、支援の3部会に分けて小中の教員がどれかに属するようにし、授業研究を推進。

授業づくり部会 文系部会（国語・社会等の教員を中心に構成）

理系部会（数学・理科等の教員を中心に構成）

支援部会（特別支援学級の担任を中心とした構成）

※いずれも5～8名の教員により構成

○基盤づくり部会

教務、養護、栄養、事務によって構成。小中で共通理解、統一できることを検討し、学力向上の基盤になることを研究、提案、実践する。（アウトメディア週間、読み聞かせ等）

○全体会…全体に係る授業研究の反省と研究の方向付けを確認する場とした。

イ 計画(経過)

5月…全体会（2回）、研究授業（小1国語） 6月…授業研究（小4国語、中3道徳）

7月…授業研究（小6社会、中3数学）、全体会 8月…全体会 9月…授業研究（中支援、中3社会）

10月…全体会、授業研究（中3国語、小5理科、小3算数、小支援）

11月…全体会、研究発表会（小5算数、中3英語、中支援） 12月…授業研究（中1社会、小2算）

※ 年度当初に、小中学校全教員の研究授業計画を作成し、計画的に研究を進めた。



旭小中一貫教育研究会全体研修会



グループ協議による授業反省

(2) 家庭学習等、学力向上の基盤となる要件の改善を行い、家庭学習習慣の確立を図ることによって学力の向上をめざす。

学習したことの定着を図ったり、学習意欲を高めたりするために、家庭学習の習慣化と内容の充実は欠かせない。そこで、小学校と連携したメディアを制限する期間の設定や中学校独自の家庭学習を充実させる取り組み、さらに地域の支援ボランティアによる放課後子ども教室などの実施により、家庭学習習慣の確立を図った。

① アウトメディア週間

本校及び旭小学校の児童・生徒には、極端に多いメディア接触が見られる。これは、広い学区内に児童・生徒が点在するという過疎地域の実情による幼少期からのTV視聴及びPC操作の習慣からくるものと推測される。そこで、本校及び旭小学校では、TVやゲーム、PCとの接触を制限する必要があると考え、中学校の定期テスト期間に合わせてメディアとの接触時間を2時間以内に制限させる「アウトメディア週間」を実施している。



取組の成果については、「アウトメディア通信」で児童・生徒・保護者に集計結果や感想などを盛り込んで発信している。また、長時間のメディアとの接触が、子どもたちのこころと体におよぼす悪影響について「小中合同保護者会」などの場で語り合い、理解を深めた。

② PTA 練磨ノート

PTA とも連携して、夏休みと冬休みの長期休業中に 1 日 1 ページの目標で自主学習する“自主学習ノート”に取り組んだ。県から配布された「夏チャレンジ」を活用したり、それぞれが考えた課題をしたりと例年にプラスされた課題であったが、しっかり活用できた生徒が多かった。また、PTA からの呼びかけということで、保護者の意識の向上にもつながった。

③ 提出物強化週間

家庭学習が習慣化していない生徒の多くが、課題への取組が不十分で、提出物を出さないままになってしまうことも多い。そこで、課題の提出状況の調査をし、実態の把握を行った。さらに定期テストや長期休業後、未提出の課題がある生徒を一定期間放課後残し、課題に取り組ませる期間を設けて指導を行った。宿題をきちんとできるようにすることで家庭学習の習慣化につなげたい。

④ 休み「学校へ行こう」の取組（3年生）

自主学習を基本とした取組として、夏休み前半の 2 週間、3 年生のうち希望者を登校させ、教室で 9 : 00 ~ 11 : 30 の時間帯で夏の宿題などをするという場を設定した。参加者は平均 5 ~ 6 名程度であったが、ルールを守って自習できていた。

⑤ 「寺子屋あさひ」の取組

放課後、児童・生徒が家庭や地域でどのように過ごすかは、学力向上と大きな関係があるものと思われる。学区に塾がなく、教育機関は学校のみという環境であるため、今年度 4 月より学校地域支援本部事業のコーディネーターが中心となり、子どもの学力向上のために協力してくれるボランティアを募り、「放課後子ども教室（「寺子屋あさひ」）」を開講している。小中学生を対象とし、現在中学生は、7 名が週 2 回教室に通っている。



寺子屋あさひ

(3) 学力向上のために有効と考えられるその他の対策について

① 練磨タイムの取組

帰りの会の前に独自の帯タイムを 10 分間設けている。小学校からの復習プリントを段階を追って実施することでつまづいている箇所を理解できるまで繰り返し解いたり、活用問題のプリントや受験対策プリント等を解いたり学年ごとに課題を用意し、取り組んでいる。

② チャレンジテストの取組

学期に 1 回の取組で、漢字・英単語・計算問題を各 100 問準備し、練磨タイムで毎日 10 問ずつ自己練習を行う。テストは 20 分程度で 100 問の中から 50 問を出題する。8 割以上正解となるまで再テストを繰り返し、最後の一人まで取組を徹底している。

③ ICT 機器の整備と利用の促進

実物提示装置、プロジェクター、スクリーンを普通教室に常設できるよう、現有の物にリースで追加増設した。基本操作の研修を行ったり活用のための資料を取り寄せたりし、授業で活用できるように研修を行った。また、併せて町で一部使用可能となったデジタル教科書や映像データベースについての業者による説明会も実施し、よりわかりやすい効果的な授業づくりが可能な環境の整備を行った。

④漢字検定の利用

民間で広く行われている漢字検定に、旭小学校では以前から取り組んできており、小学校で実施されているものに相乗りする形で中学生も希望者が参加できるようにし、準会場として年間3回程度の受検機会を提供してきた。受検者数は、中学生の半数程度で、それぞれの目標に向けてよく取り組んでいる。



小中合同漢字検定

3. 調査研究の成果の把握・検証

(1) 問題解決的な学習の展開による「考える力」の育成

昨年度より児童・生徒に「教室の様子」と称したアンケート調査を定期的に行うことで、その実態や変容ぶりを把握し、指導に生かしている。

質問項目の内、以下の4つの項目について抽出、昨年度6月と本年度の6月、1月をグラフに表し、比較すると次のようになった。

教室の様子アンケート結果 図1

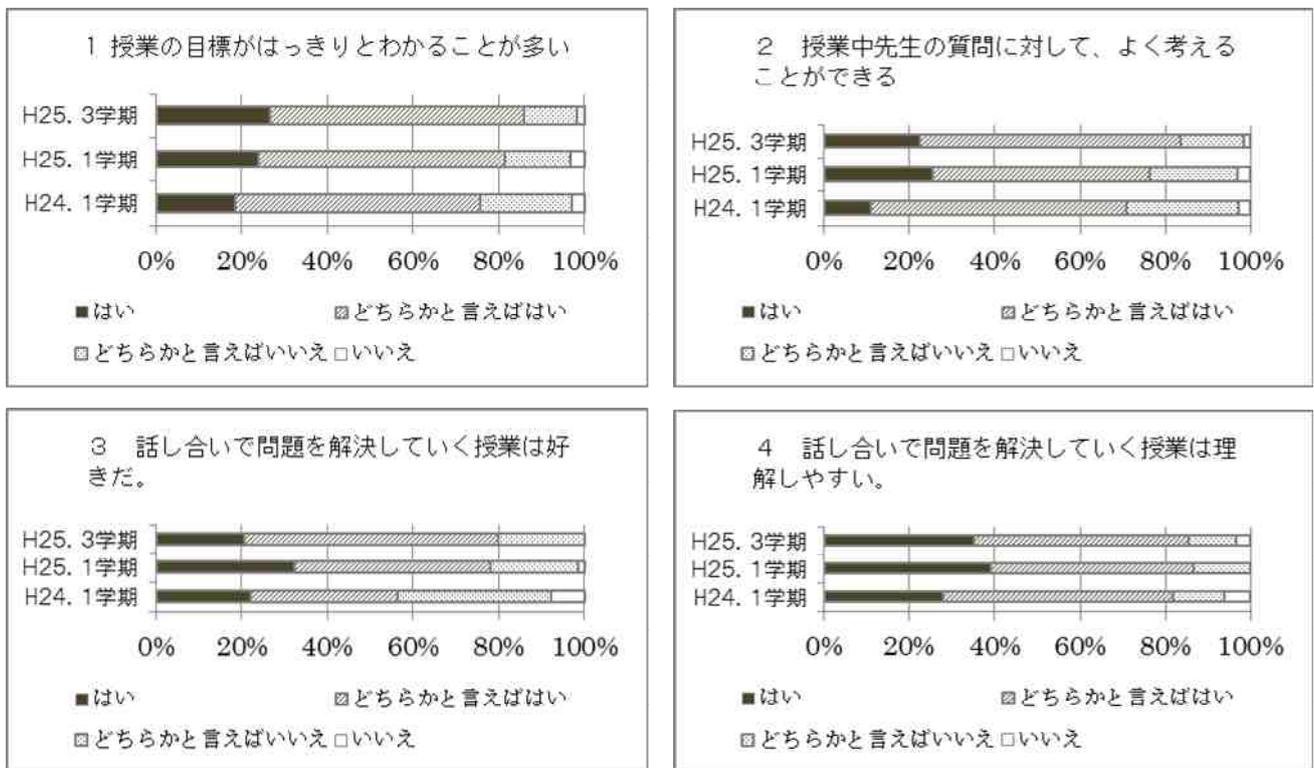


図1の4つのグラフから、「授業の目標がわかる」「しっかり考えることができる」「授業の中で話し合いをすることは好きだ」「話し合いをするとよくわかる」の質問で肯定的回答をした生徒の割合が、昨年度6月より今年度6月、さらに1月と徐々に増えていることがわかる。

これらの結果から「めあて→個人思考→集団思考→まとめ」の授業展開を全教科でパターン化した指導をすることで、生徒が見通しを持って授業に取り組み、前向きに考えたり話し合ったりすることで理解が深まっていると感じていることがわかる。生徒は話し合いをとおして学習する本校のスタイルを肯定的にとらえており、実際に授業での話し合いの場面で、しっかりと考え、その考えをグループやクラス内で表現することが自然にできるようになってきている。小中一貫研修でも学年が上がるにつれて、上手に表現できるようになってきているとの職員の感想があった。

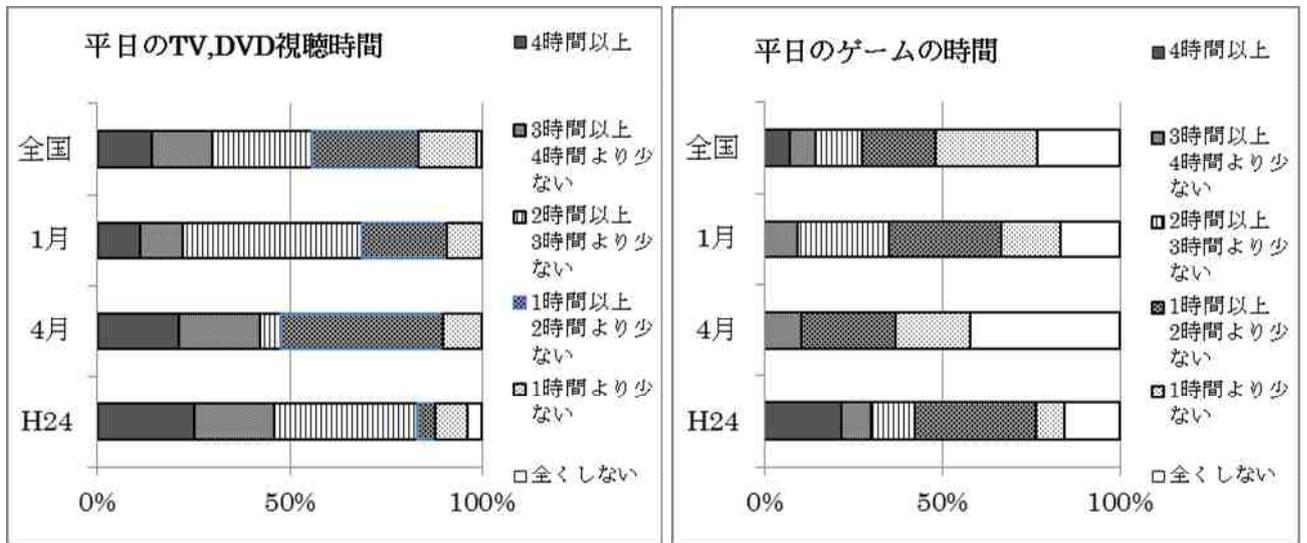
(2) 学力向上の基盤づくりと家庭学習習慣の確立について

ゲーム、PC等の過度の接触の対策として行った「アウトメディア週間」を年5回設定し、チェックカードで各自記録を取らせ、結果と感想をアウトメディア通信に掲載し、各家庭への啓発をかねて発信した。また、11月には小中合同の保護者会を開き、外部講師によるLINEの危険性についての学習会の後、児童生徒の実態やアウトメディアの意義について参加者で確認し、グループ討議で活発に意見交換ができた。

これらの取組の成果を検証するため、メディア接触の時間の状況について、1月に全国学力学習状況調査の質問紙調査と同内容の調査を全校で実施し比較した。図2は、その結果のグラフである。TV・DVD視聴時間、平日のゲームの時間ともに3時間以上の生徒は、H24年から徐々に減ってきている。これは、取組の成果といえるだろう。しかし、TVの視聴・ゲームとも2時間以上の生徒が、全国平均と比較して多いことや今年度の後半に増えていることから、今後も工夫をしながら、取り組みを継続していく必要がある。

メディア視聴時間のH25年度全国質問紙調査との比較

図2

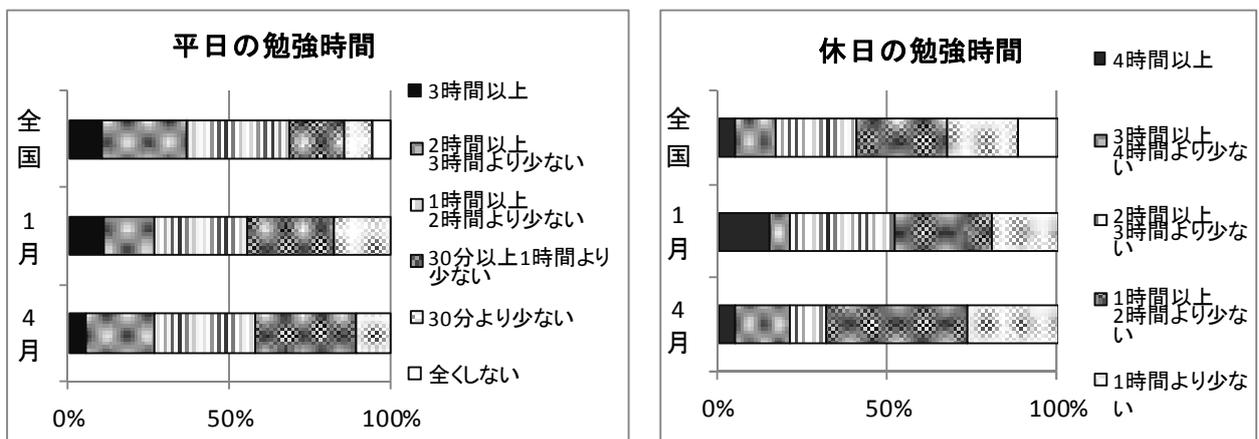


さらにメディアの接触を減らして学習時間を増やし、学習習慣の定着を目指すという目標で取り組んでおり、家庭での学習時間について、先ほどと同じように全国の質問紙調査と比較して考察した。

図3のグラフを見ると、休日の勉強時間は全国と比べて遜色はないが、平日の勉強時間は、全国より少ない。これは塾に通っている生徒がほとんどいないことも影響していると考えられるが、平日に1時間以下しか勉強をしない生徒が半数近くいるので、宿題や予習復習などの課題に確実に取り組む生徒を増やすことで、底上げをする必要がある。

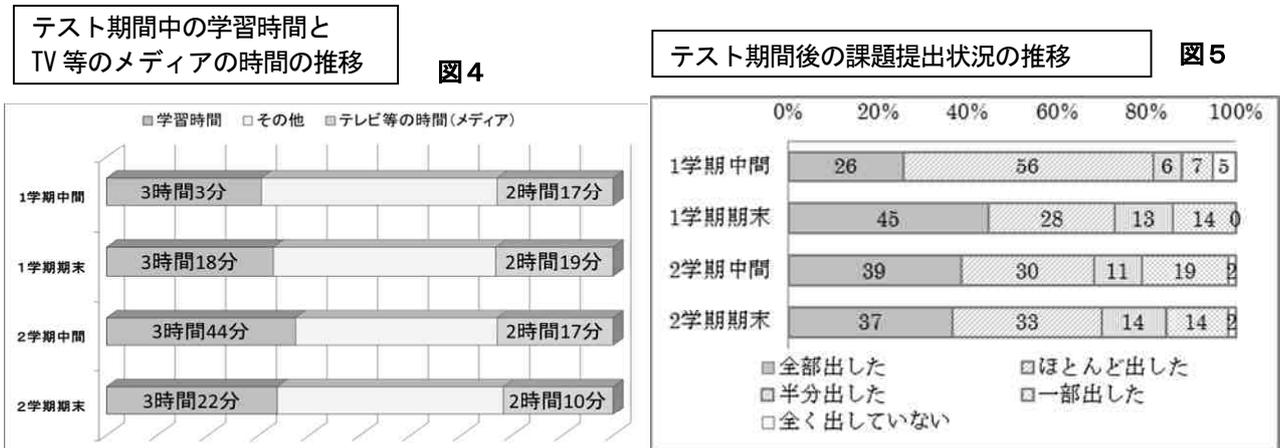
家庭での勉強時間のH25年度全国質問紙調査との比較

図3



また、アウトメディア週間中（テスト期間中）のメディア接触と家庭学習の時間を調査した結果は、図4のようになった。全期間でメディア接触の時間が2時間を僅かに超えており、アウトメディアの期間中の2時間以下という目標を達成できていない生徒が多いことがわかる。しかし、前出の質問紙調査のTV・ビデオの視聴とゲームの時間を合わせた時間からすると、一定のメディア制限の効果があるといえるだろう。実際に取り組みカードの生徒の感想や保護者の一言から、目標を意識して生活していた様子が伺うことができた。

学習時間についても、全体としては増える傾向にあり、アウトメディア週間以外の勉強時間の分布結果と比較しても、家庭学習の時間が増えていることがわかる。



アウトメディア週間の他にも家庭学習の習慣化につなげる取組をいくつか実施しており、その一つが、課題の提出状況調べである。図5のグラフは、テスト週間に実施した提出物の提出状況調査の結果である。1学期期末には課題を全部出せた割合に大きく改善があるものの、その後徐々にその割合は減少している。また逆に課題を半分以下しか出せていない生徒が増える傾向もある。これらの実態から、1学期末より提出物強化週間を設定し、定期テストや長期休業後、未提出の課題がある生徒を一定期間放課後残して指導を行った。

4. 今後の課題

学力向上をめざした「考える力」の育成を目標とした授業改革という長期的な視点と、授業規律や家庭学習習慣の確立といった学力定着の基盤になる部分の改善にも同時に取り組んできた。加えて、書く活動を取り入れた指導を行ったり、チャレンジテストやドリル学習も取り入れたりして、基礎基本の定着を図った。

その結果、生徒の意識や授業での学習の様子に改善が見られるものの、まだまだ生徒自身がかかるようになったという手応えがないのが現状である。目に見える成果については、今後の検証が必要である。また年度途中からの取組もあったため、今後、見通しをもって全教科や全校で取り組めるように内容を整理し、充実させる必要がある。以上のことから次の点において今後の改善や継続的な取組が望まれるところである。

(1) 授業力の向上

- ・言語活動を取り入れた問題解決型の授業展開
- ・ICTを活用したわかりやすい授業づくり

(2) 基礎基本の定着

- ・個々の課題や学習でのつまずきにに応じた指導
- ・ドリル等での繰り返し学習
- ・読書活動の充実

(3) 小学校との連携

- ・9年間を見通した発達段階ごとの指導目標の作成
- ・研修組織の見直し
- ・交流の授業、行事の計画

(4) 家庭学習の定着

- ・学習意欲の喚起と学習習慣の確立
- ・家庭、地域との連携

(5) 学級集団づくり

- ・学習規律の徹底
- ・お互いが認め合える人間関係づくり